

Architecture / Design / Education / International Exchange

NICHE

工学院大学建築系同窓会誌 2019 vol. 42

<http://niche-alumni.com>

プラハ、ウィーン、ブダペシュト
建築探訪!

Prague

Wien

Budapest

キュビズム建築とプラハ

ロース、ヴァーグナー、ホフマンとウィーン

レヒネル・ウドゥンとブダペシュト

1級建築士への最短コース 2nd Class Architect ACADEMIC

2級建築士 アカデミック講座



試験概要 学科試験(1次試験) 試験日程 願書配布...3月下旬~4月中旬 願書受付...4月下旬 本試験開始...7月上旬 合格発表...8月下旬 試験形式 4科目(各科目25点満点) 合計100点満点 5級賞(マークシート式)	出題科目 計画 建築計画・環境工学・建築設備に関するもの 法規 建築法規に関するもの 構造 構造力学・建築一級構造・建築材料に関するもの 加工 建築施工・構造機械に関するもの 試験時間 10:00~13:00(計画・法規) 14:10~17:10(構造・加工) 計6時間	合格ライン 【合格基準点】 計画13点・法規13点 構造15点・加工13点 合計60点 ※前年度1年ぶりの試験実施。正答率、合格率、科目別合格率等は公表せず、試験年度により確定する。
--	---	---



学生生活もレレレ
卒業までレレレ
大丈夫!

合格を目指すための...
学習フロー

17期生 4月1日より募集開始

10~12月



多くの受験生が苦手意識をもつ力学と、得点源となる法規についての基礎を学びます。

1~3月



忙しい卒業間近の時期は、いつでもどこでも学習できる、自宅学習が中心。

4月



通学で、受験に向けての準備や、通学用教材の受け取りを行います。

4~7月



徹底的に問題を解き、解説をよく読むことで実力を養成。

日程	2019												2020																																			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																											
受験日程(例年)													2建士 2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士	2建士																	
実施場所	自宅学習期間						ステップ1 大学又は日建学院通学						ステップ2 自宅学習期間						ステップ3 日建学院通学																													
講座名	養成アプローチ(受験準備)講義						建築士入門講義						2級建築士問題解説講座						2級建築士設計製図講座																													
2級建築士学科アカデミック講座	建築BASICテキスト ※建築BASICテキストお申込みいただいた学生様よりテキスト配布。												平日夜間又は土曜・日曜コース 1通(2時間×2回)												教材セットアップ ・WEB添削実施 ・問題集セットアップ ・法令集セットアップ ※受講者の卒業課題進捗に合わせて個別に進行予定。 取要 学業を確かにさせないこと。												特訓テスト(オプション) 設計製図講座(オプション)											
	力学 講義回数 8回(約4週) (12時間)												法規 講義回数 6回(約3週) (9時間)												設計講義回数1回(2時間)												マルソンテスト①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕ ・精選問題A-D 25問×4科目 ・問題集11-4 計:50問×2回 ・法:40問×2回 ・構:50問×2回 ・加工:50問×2回 ・必修テスト1-4 20問×4科目×4 →320問 ・小テスト 構成法規 10問×3回 計 30問 法 10問×4回 構 10問×4回 加工 10問×4回 計 40問											
大学側行事	7月下旬~9月中旬 前期授業終了			10月上旬~下旬 学園祭			卒業論文 卒業制作			卒業制作 論文発表			卒業式			7月下旬~9月中旬 前期授業終了			9月下旬~10月中旬 後期授業開始			9月下旬~10月中旬 後期授業開始			7月中旬~下旬 前期試験期間																							
	7月中旬~下旬 前期試験期間			9月下旬~10月中旬 後期授業開始			卒業までレレレ ガンバろう!			12月中旬~1月上旬 冬季休暇			1月下旬 後期授業終了			2月下旬~3月下旬 春休み期間			4月上旬~下旬 入学式			4月上旬~中旬 前期授業開始			7月中旬~下旬 前期試験期間																							

2級建築士学科アカデミックコース

ステップ1+2 2級アカデミック (学費 30,000円+税)

ステップ3 2級問題解説コース (通常学費 180,000円+税)

総額 21万円+税 ▶ 学費 30,000円+税

申込は
ここから

お問合せ: 03-6872-1158
運営: **日建学院**

総合資格学院は 1級建築士試験も 2級建築士試験も 「日本一」の合格実績!

おかげさまで
「1級建築士も2級建築士も合格実績日本一」
を達成しました。
これからも有資格者の育成を通じて、
業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院 学院長 岸 隆司

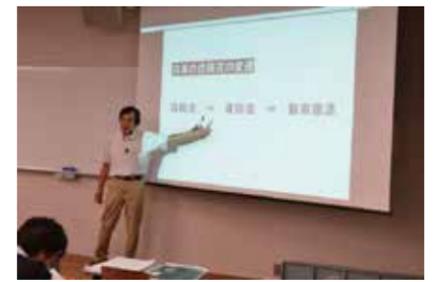
目指せ住環境のプロフェッショナル

インテリア コーディネーター 講座

未来のために「今」できることを考える!

皆さんは、日々知識の習得に励み、アルバイトや仲間との交流を通じて、「今」しかできない、貴重な経験を重ねていることと思います。
学生時代は、そうした貴重な経験や体験ができる場であると同時に、近い将来、自分が進む道を方向づける場でもあります。
インテリアコーディネーターは、建築・不動産業界での仕事に生きる資格であるだけでなく、資格にチャレンジする過程で得る知識は、実務に就いた時に必ず皆さんの助けとなるでしょう。また、就活に於いて有利な立場に立てることは言うまでもありません。
自分自身の未来のために、学生である「今」できることにチャレンジしませんか。

講座風景



①就活に役立つ!

皆さんの人間性や個性を面接だけで企業側に伝えることはなかなか難しいですよね。目指す企業に就職するために、企業研究やOB訪問をし、面接準備を進めるのが一般的な就活対策ですが、その他にも**自身の能力や強みを分かりやすく企業側に伝えることができるのが「資格」**です。「資格」はそれ自体が価値のあるものですが、就活において資格は「**目標に向けて努力をし、結果を出した人物**」として評価されます。「住」に関する多くの業界で活かせる資格です。

②知識が生涯の財産に!

建築・住宅・インテリア関連の仕事に従事している方でも、インテリアを基礎からしっかり学んだという方は意外に多くありません。**受験対策を通じて得る知識は、必ず実務で役に立ちます。**しっかりした知識・教養に裏打ちされたスキルは、**生涯を通じて皆さんの大きな財産**となります。比較的時間に余裕のある「今」こそチャレンジに最適なタイミングです。

2018-2014年度 1級建築士学科・設計製図試験

全国 ストレート合格者占有率
全国ストレート合格者合計8,080名中 / 総合資格学院受講生5,004名

全国ストレート合格者の
6割以上は総合資格学院の受講生!

ストレート合格者占有率
61.9%
(2018年12月20日現在)

2018-2014年度 1級建築士学科試験

全国 合格者占有率
全国合格者合計23,360名中 / 総合資格学院受講生11,804名

全国合格者の2人に1人以上は
総合資格学院の受講生!

合格者占有率
50.5%
(2018年9月4日現在)

2018-2014年度 1級建築士設計製図試験

全国 合格者占有率
全国合格者合計18,464名中 / 総合資格学院受講生10,427名

全国合格者の
およそ6割は総合資格学院の受講生!

合格者占有率
56.5%
(2018年12月20日現在)

2018年度 2級建築士設計製図試験

資格取得スクールとしてNo.1の
合格実績を達成しました!

総合資格学院当年度受講生合格者数 **2,179名**

全国合格率54.9%に対して総合資格学院
基準達成当年度受講生合格率 **87.1%**

※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※全国合格率
6.99%中、総合資格学院合格者2,179名 / 目標達成当年度合格者2,137名 / その他合格者
1,681名 ※前記合格実績および合格者の内訳は2018年12月11日現在のものです。
※出典: http://www.kakinet.co.jp/mikken/index.aspx

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会(No.1表示に関する実態調査報告書)に基づき掲載しております。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、1級建築士学科試験に合格し、同年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

1級建築士 卒業学校別実績

2018年度 1級建築士設計製図試験
卒業生合格者20名以上の学校出身合格者の**およそ6割**は総合資格学院当年度受講生です。
卒業生合格者20名以上の学校出身合格者合計2,170名中、
総合資格学院当年度受講生合計1,243名

当学院受講率 **57.3%**

学校名	卒業合格者	当学院受講者	当学院卒業生	学校名	卒業合格者	当学院受講者	当学院卒業生	学校名	卒業合格者	当学院受講者	当学院卒業生
日本大学	209	105	50.2%	京都工芸繊維大学	38	28	73.7%	東京大学	29	9	31.0%
東京理科大学	117	70	59.8%	東海大学	38	27	71.1%	北海道大学	29	13	44.8%
芝浦工業大学	100	60	60.0%	東北大学	37	13	35.1%	広島大学	28	19	67.9%
早稲田大学	96	45	46.9%	首都大学東京	36	23	63.9%	中央工科大学	27	16	59.3%
近畿大学	77	43	55.8%	大阪市大学	35	17	48.6%	宝塚工業大学	26	9	34.6%
明治大学	75	49	65.3%	横浜国立大学	34	19	55.9%	鹿児島大学	25	17	68.0%
神戸大学	70	40	57.1%	東京電機大学	34	18	52.9%	摂南大学	24	17	70.8%
千葉大学	66	43	65.2%	立命館大学	34	24	70.6%	千葉工業大学	24	15	62.5%
工学部大学	58	29	50.0%	金沢工業大学	33	19	57.6%	大阪大学	23	13	56.5%
東京都市大学	54	37	68.5%	東北工業大学	33	16	48.5%	東北工業大学	23	14	60.9%
大塚工業大学	50	32	64.0%	福岡大学	33	16	48.5%	愛知工業大学	22	11	50.0%
名城大学	49	32	65.3%	神奈川大学	32	19	59.4%	慶應義塾大学	21	12	57.1%
京都大学	47	20	42.6%	熊本大学	31	18	58.1%	広島工業大学	21	15	71.4%
浜松大学	46	30	65.2%	名古屋大学	31	21	67.7%	大分大学	21	12	57.1%
九州大学	45	27	60.0%	信州大学	30	15	50.0%	三重大学	20	14	70.0%
関西大学	42	20	47.6%	新潟大学	29	15	51.7%				
名古屋工業大学	39	26	66.7%	静岡理工科大学	29	21	72.4%				

2018年度 設備設計1級建築士講習【修了率】

総合資格学院当年度通学受講生修了率 **77.1%**

総合資格学院当年度通学受講生35名中 / 修了者27名

修了率の差 **2倍以上**

総合資格学院当年度通学受講生以外の受講者修了率**36.2%**
総合資格学院当年度通学受講生以外の受講者304名中 / 修了者110名
(2018年12月19日現在)

2018年度 2級建築士【学科試験】

全国合格率**37.7%**に対して
総合資格学院基準達成当年度受講生合格率 **92.6%**

8割出席・8割宿題提出・総合模擬試験正答率6割以上当年度受講生950名中 / 合格者880名

総合資格学院当年度受講生合格者数 **2,020名**
(2018年8月21日現在)

2018年度 1級建築施工管理技術検定【学科試験】

全国合格率**36.6%**に対して
総合資格学院基準達成当年度受講生合格率**85.8%**

8割出席・8割宿題提出当年度受講生584名中 / 合格者501名
(2018年7月20日現在)

2018年度 1級土木施工管理技術検定【実地試験】

全国合格率**34.5%**に対して
総合資格学院基準達成当年度受講生合格率**71.4%**

8割出席・8割宿題提出当年度受講生133名中 / 合格者95名
(2018年7月16日現在)

全国約90拠点

総合資格学院

【開講講座】
1級・2級建築士 構造設計 1級・2級建築士 設備設計 1級・2級建築士 建築設備士 1級・2級建築士 建築設備士 1級・2級建築士 建築設備士

【法定講習】
監理技術者講習 / 一般二級・水泳建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習 / 第一種電気工事士定期講習

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F
TEL.03-3340-2810
スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp

総合資格 検索 Facebook「総合資格」で検索!

【願書取り寄せサービス】webのお申込フォームからカンタン申込 すべて無料で入手できる! お申込無料 スクールサイトまたは最寄校まで!

お申し込みは、同窓会ホームページ (<http://niche-alumni.com/>) にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築系学科 同窓会

二級建築士エクステンション対策講座

①学習習慣の創出
社会に出た後に養うことが難しいことの1つは、業務時間外の「学習習慣」です。業務に慣れていない入社直後の状態から、いざ「社会人になったから学習を始めよう」と思っても、仕事に意識をとられ上手い出来ないことが多いです。この入社までの期間、学校にいる時間外に学習する習慣が身につけば、入社後、業務時間外に学習を行うことも、苦になりません。

②二級建築士取得までの土台づくり
「二級建築士」の取得に必要な時間は、現在700時間と言われています。これは、試験に合格している受講生から統計を出したデータです。学部卒の方はご入社して三ヶ月後に受験となります。三ヶ月では学習が間に合わない可能性が高いです。今から学習を始めれば、無理なく学習が出来、社会人1年目で有資格者となることができます。

■2級建築士が扱える (設計・工事監理)建築物

【木造の場合】

- 高さの制限
高さ13mかつ軒高9m以下まで。
- 延べ面積の制限
1階建て…制限無し。
2階建て以上…1,000㎡まで。

【鉄筋コンクリートの場合】

- 高さの制限
高さ13mかつ軒高9m以下まで。
- 延べ面積の制限
階数に関わらず300㎡まで。

※木造も、鉄筋コンクリート造も、建てられる階数に制限はありませんが、高さや軒高の制限から、現実的には3階建て程度が限界です。
※学校、病院、劇場、映画館、公会堂、宴会場(オーデトリウムを有しないものを除く)又は百貨店の用途に供する建築物で、延べ面積が500㎡を超えるものは、1級建築士でなければ設計又は工事監理をすることができません。
※その他の構造種別に関する詳細は、試験実施機関のHP、または当学院のHPにてご確認ください。

二級建築士の独占業務

- 建築物の設計
- 建築物の工事監理
- 建築主に対する重要事項説明

建築士の資格を持っていないとできない「独占業務」というものがあります。設計も工事監理も、お客様に対する重要事項説明も、有資格者のみが出来る仕事です。建設業界では資格の有無が仕事の幅や今後の活躍に大きく影響します。

実務に活かせる2級建築士

資格取得がこんなに仕事に活きる

最低限のルールを学べた

自分は施工管理の人間なので、こういったプロセスで設計がされているか、以前は具体的にわからない状態でしたが、試験勉強をすることで、最低限のルール等を学ぶことができました。(25歳/ハウスメーカー)

エスキスの手順が効率アップに

設計事務所で働いており、普段の仕事はCADで製図を行っていますが、資格試験のため、手書きの練習を何度も重ねた結果、実際の仕事の計画をするうえで順序よく考えられるようになり、仕事の効率もアップしました。(22歳/設計事務所)

プレゼンテーション能力が養われた

建築という仕事は知識だけではなく、プレゼンテーション能力も要求される仕事だと思います。限られた時間のなかで、要求を満たしながら人を惹きつけるプランを提案する。建築士の学習を通して学んだ方は、仕事でも役に立っています。(27歳/教育、学習支援業)

LIVE講義

専属講師が直接講義！
質問対応・疑問を
その場で解消！

「+」は、未来への可能性。
時代の変化を捉え、未来を見越す力。
建築を取り巻く都市環境までの設計。

AAR+

「+」means, towards potential future.
Capture the changes of times,
the ability to anticipate the future.
Design the urban environment surrounding
the building.

CORPORATE PHILOSOPHY

“気づくこと + 築くこと”
THOUGHTFUL NESS + DESIGN

社会、人、未来のニーズに“気づくこと”。

+

都市全体というマクロな視点で見定め、
その環境・歴史の流れの中で最適な建築を“築くこと”。

AAR+は、「気づくこと+築くこと」という2つで1つのフィロソフィーを大事にしています。

Based on the “thoughtfulness” of the society, human, the future needs

+

observation from macro viewpoint of the entire city,
to “design” the best architecture in the context of its environment and history.

AAR+ takes care of one philosophy with two things in combined “thoughtfulness + design”.

合格を完全サポート！オリジナルテキスト・問題集！



B5判で見やすい法令集
便利なアンダーラインの引き方、
カラーインデックス付き！

総合資格学院

すべては「合格」のために

▼講座に関するお問い合わせ
総合資格新宿校 TEL(03)3340-5671
kogakuin-dousoukai@shikaku.co.jp

お申し込みは、同窓会ホームページ (<http://niche-alumni.com/>) にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築系学科 同窓会



浅井謙建築研究所 株式会社

ASA I KEN ARCHITECTURAL RESEARCH INC.



<https://www.asai-archi.com/>



NICHE 2019 vol. 42
目次

プラハ、ウィーン、ブダペシュト 建築探訪!

- 同窓会より
- 8..... 巻頭言
- 10..... NICHE Topics
- 12..... 新刊書紹介

- 14..... 世界遺産都市 プラハ、ウィーン、ブダペシュト
—オーストリア=ハンガリー君主国の三都 中島智章
- 20..... チェコの結晶体 平井充
プラハ建築マップ
- 24..... ウィーンの近代化とヴァーグナー 土屋和男
ウィーン建築マップ
- 28..... レヒネル・ウドウンの生涯と作品 Mihály Ludmann
ブダペシュト建築マップ



- 32..... NICHE Passport
イタリア建築旅行記 江森健人
スペインで感じる「新」と「古」の構造美 松田貴裕
「熱い」国 シンガポールへ 岡嶋千尋
神聖な街 ローマの教会堂を巡る 三上真実
過去と未来が混在するヨーロッパ 小野亜純
崖に沿う集落 サントリーニ島・フィラ 大野由
- 46..... 白樺湖 夏の家 香川浩
歳時記2018
武藤章の内省する空間 鈴木敏彦

NICHEとダイジェスト

2014年より、工学院大学建築学部同窓会誌NICHEは2冊に分かれました。一つは建築とデザインの学際的な架け橋として、海外取材に基づく特集記事と連載を中心とした叢書「NICHE」です。同窓会費や寄付金をお支払い頂いた方にお送りするほか、全国主要書店やAmazonで販売しています。もう一つは広報誌「NICHEダイジェスト」です(本誌)。「NICHE」から抜粋した内容と本学に特化した記事を掲載し、同窓生や本学関係者に無料で配布します。

NICHE 06 プラハ、ウィーン、ブダペシュト 建築探訪! 2019年5月発行予定

1 ハブスブルク3都
世界遺産都市 プラハ、ウィーン、ブダペシュト
—オーストリア=ハンガリー君主国の三都 中島智章
ウィーンのパロック建築
プラハのパロック建築
ブダペシュトのパロック建築
コラム1 シェーン・ブルン宮殿宿泊記

2 オーストリア
結ぶ人—渡邊洪基の生涯 瀧井一博
ウィーンの近代化とヴァーグナー 土屋和男
ウィーン建築マップ
島崎信先生と巡るトーネットの源流を探る旅 杉原有紀
ヴァーグナーとホフマンとロース
ウィーンのモダンな家具デザイン Stephan Becker
コラム2 トーネットとトン 鈴木敏彦

3 チェコ
チェコの結晶体 平井充
プラハ建築マップ
アドルフ・ロースによるプラハのミュラー邸復元
Václav Girsá
チェコの近代建築 - 総合の産物 Petr Vorlík
アントニン・レーモンド賞について
Dominika Kovandová
コラム3-1 チェコとウィーンヴェルクブント住宅群
コラム3-2 ロースとミースの素材感 鈴木敏彦

4 ハンガリー
レヒネル・ウドウンの生涯と作品 Mihály Ludmann
ブダペシュト建築マップ
フリードリヒ・オットー・シュミットとアドルフ・ロース
Peter Rostás
コラム4 ブダペシュトのカフェ文化 杉原有紀

5 輝かしき先輩たち
福島建築文化を育んだ内田学校
平井充
土井豊吉の台湾における活動 蔡龍保
輝かしき先輩たち 第20回 松本與作
類洲環



ハプスブルク家のシェーンブルン城館



キュビズム建築、黒い聖母の家(ブラックマドンナ)



内部階段



オットー・ヴァーグナーのウィーン郵便貯金局



レヒネル・ウドゥンの郵便貯金局



屋根のディテール

巻頭言

2019 vol. 42

NICHE出版会では2014年から「大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する」という理念を掲げ、大学関係に配布するダイジェスト版と、広く一般に発信する書籍の2本立てにシフトして今年で6年目を迎えた。前者では同窓生の仕事ぶりや、海外渡航奨励金制度を用いて海外を巡った在学生のレポートを載せ、後者では毎回異なる国をテーマに掲げ、海外の建築探訪を通じてその国の建築と歴史を掘り下げる特集を組んできた。世界は目まぐるしく動いているが、建築とデザインと教育事情には常に通底するものがある。それは海外に対する飽くなき好奇心と、見聞きしたものを還元しようとする力である。1887年に本学を創設した渡邊洪基は1890年に駐オーストリア特命全権大使として働いた。渡邊先生にならい、『NICHE 06』ではオーストリア・ハンガリー帝国(1867-1918年)を取材対象とし、当時ハプスブルク家が統治したプラハ、ウィーン、ブダペシュトを巡った。

特集1 オーストリア=ハンガリー君主国の三都

観光地として名高いウィーンには日本から直行便が飛んでいる。シェーンブルン宮殿や分離派の建築、旧市街地としてのリンクシュトラセ内の地区を訪ねる人は多くても、隣国チェコのプラハ、ハンガリーのブタペシュトまで足を伸ばすとすると、途端に数が減るのではないだろうか。ドイツ語圏であるオーストリアに対し、チェコ語とハンガリー語を用いる両国には、乗り換え便でしか行くことができないことも相まって距離を感じる人も多いだろう。だからこそ、ウィーンを訪ねた折にはぜひ周辺にまで足を運んで欲しい。近世から近代にかけてハプスブルク家の傘下にあった君主国の三都の歴史的経緯を中島智章先生に解説して頂いた。

特集2 プラハ

フランスで生まれたアール・ヌーヴォーはプラハの建築にも影響を与えた。一方で、ピカソやブラックら画家が描いたキュビズムはプラハで建築として独自の進化を遂げる。幾何学的な造形がゴチャール、ヤナーク、ホホルといった建築家によって試みられ、水晶体のような家具や三角形に面取りした建築が現れた。やがてハプスブルク家の支配が終わると民族運動と相まって、円形や三角形の表現が生まれた。しかし装飾の時代も終焉を迎え、モダニズム建築が登場する。『NICHE 06』ではチェコ生まれの建築家であるアドルフ・ロースやアントニン・レーモンドの機能主義への移行を

追い、ロース設計のミュラー邸の改修についてプラハ工科大学のヴァーツラフ・ギルサ氏に、レーモンド賞について受賞者のドミニカ・コヴァンドヴァさんにレポートして頂いた。

特集3 ウィーン

アール・ヌーヴォーは、ドイツ語圏ではユージェントシュティールと名を代え、曲線や植物をモチーフとしたオリエンタルな趣味や、当時の文化人が集ったカフェ文化を反映し、19世紀末のウィーンを優雅に彩った。そしてオットー・ヴァーグナーやヨーゼフ・ホフマンらは1897年にウィーン分離派を形成した。我らが渡邊洪基先生は1873年に駐オーストリア臨時代理大使を、1890年に駐オーストリア特命全権大使を務めた。帰国後に、渡邊先生が妻の貞子と鹿鳴館で華麗なダンスを披露したのは、ウィーンで培った社交術によるものと言われているが、その他の渡邊先生の活動は明らかではない。国際日本文化研究センターの瀧井一博先生に、渡邊先生の生涯とウィーン時代についてご寄稿して頂いた。

特集4 ブダペシュト

ハンガリーの近代建築についての研究は少ない。知名度は高くないが、一度見たら決して忘れられないアール・ヌーヴォーの建築がブタペシュトには点在している。レヒネル・ウドゥン(1845-1914)が設計したハンガリー国立地質学研究所や郵便貯金局は、カラフルなタイルを屋根に用い、蜂や海

洋生物をモチーフにした柱やガラス扉や内装でインテリア空間を構成している。非常にロマンティックな装飾は一世を風靡したが、時代のあだ花として機能主義の到来後は顧みられることがなかった。しかし、オーストリア・ハンガリー帝国の興亡をつぶさに見つめたウドゥンは同時代の生き証人であり、表紙は彼の建築以外にありえなかった。ウドゥン研究の第一人者であるミハイ・ルドマン氏に解説を書き下ろして頂いた。

連載 工手学校研究「近代建築を支えた建築家の系譜」

工学院大学建築学系同窓会では、工手学校の卒業生のパイオニアとしての活動を台湾と日本で探っている。国立台北大学歴史学系教授の蔡龍保先生が「土井豊吉の台湾における活動」について、そして「輝かしき先輩たち」の連載を手掛ける類州環氏には「工手学校卒業生で、唯一、近代建築史に名を刻む松本與作」の記事をご寄稿いただいた。

大学という学び舎は知的資源の宝庫である。そして言語と国境を越えた人的ネットワークこそ、未来への力を育む。NICHE編集部では海外を広く視野に入れ、皆様からの忌憚のないご意見とご感想を励みに、ニッチな世界を切り拓いていきたい。

2019年3月 東京にて
NICHE 編集長
建築学科同窓会会長 鈴木敏彦



Suzuki Toshihiko

1958年東京生まれ。工学院大学建築学科修士課程修了。黒川紀章建築都市設計事務所、フランス新都市開発公社EPA marne、早稲田大学建築学専攻博士課程を経て、1999-2007年東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科助教授、2007-2010年首都大学東京システムデザイン学部准教授、2010-2011年工学院大学工学部建築都市デザイン学科教授。2011年より工学院大学建築学部建築学科教授。北欧建築・デザイン協会副会長。グッドデザイン賞/中小企業庁長官賞、アジアデザイン大賞グランプリ、レクサスデザインアワード2013、iFデザインアワード2014、第19回木材活用コンクール林野庁長官賞、A'Design Award2016銀賞他受賞多数。著書に「世界で一番美しい建築デザインの教科書」(エクスナレッジ)、『北欧の巨匠に学ぶ図法 家具・インテリア・建築のデザイン基礎』(彰国社)、『北欧の巨匠に学ぶデザイン アスブルンド/アールト/ヤコブセン』(彰国社)、『建築プロダクトデザイン/暮らしを劇的に変えるモノと空間の設計思想』(講談社)、『ヤコブセンの建築とデザイン』(TOTO出版)、『プロセスでわかる 住宅の設計・施工』(彰国社)などがある。

小野正行先生、2018年秋の叙勲、瑞宝中綬章



小野正行氏（1964年建築学科卒）が、平成30年秋の叙勲で瑞宝中綬章（教育 研究 功 労）の榮譽を受けられた。瑞宝章は教育や研究に長年従事し他の模範となる功労のある者に授与される。小野先生は、工学院大学工学部建築学科十代田研究室を卒業後、武蔵工業大学と工学院大学望月洵研究室の助手を経て、近畿大学にて福岡キャンパス内の改組と教育研究の整備と活性化に尽力し2004年に産業理工学部長となった。2001年に工学院大学にて「鉄筋コンクリート造有開口耐震壁の弾塑性性状に関する研究」で博士（工学）を取得。2008年に退職し近畿大学名誉教授となった。「皇居に参内して、天皇陛下に拝謁の栄を賜り日本人であることを実感した」と受章の喜びを語った。



NICHE Topics

2018年度の話

第103回二科展、高松良幸氏受賞 二科美術展覧会・会員賞受賞

高松 良幸氏（1973年建築学科卒）は設備工学コースの在学中より美術部に所属し、卒業後も旧日産建設に勤務する傍ら創作を続けた。1986年第71回二科展で初入選を果たし、2003年より広島にて個展を開催し、2014年より二科会会員。工場跡や廃屋裏の秘密



の場所をテーマに描き続け、2018年は『深層の記憶・街』でコンクリートのがれきを精密に描き、第103回二科展の絵画部門で会員賞を受賞した。現在は独立して設計を営みながら、アトリエブラック講師、日本美術家連盟会員、広島市文化協会美術部会長を勤め、さらなる活躍が期待される。

第3回日本建築家協会25年賞 第4回これからの建築士賞 「白樺湖夏の家」

「工学院大学旧白樺湖学寮 白樺湖夏の家」は完成から25年以上良好な状態で維持管理されている建築物として、第18回「JIA25年賞」を受賞した。また、未来につながる社会貢献を行った建築士を表彰する「第4回これからの建築士賞」（日本建築士会）を受賞した。これは本学の武藤章先生が南迫哲也先生らと共に設計した学寮を、建築系同窓会が減築して原型に戻し、「白樺湖夏の家」として動態保存している建築である。受賞を機に、多様化する社会の中で、建築の保存と維持と継承の意味を再考していきたい。活動状況を巻末で報告する。



白樺湖夏の家(長野県茅野市)
建築主:工学院大学建築系同窓会
設計者:武藤章(工学院大学教授)
施工者:橋場建設(現・ハシバテクノス)
竣工年月:1968年11月

一級建築士合格者 大学別ランキングで9位

国土交通省から、2018年度一級建築士試験「設計製図の試験」の合格者が発表された。本学出身の合格者は58人。学校別合格者では全国9位。昨年度から3位ランクダウンした。

1位	日本大学	209名
2位	東京理科大学	117名
3位	芝浦工業大学	100名
4位	早稲田大学	96名
5位	近畿大学	77名
6位	明治大学	75名
7位	神戸大学	70名
8位	千葉大学	66名
9位	工学院大学	58名
10位	東京都市大学	54名

構造系OB・OG会セミナー

2018年5月26日、新宿校舎762号室にて「構造系OB・OG会セミナー」を開催し61名が出席した。工学院大学構造系研究室有志と宮澤健二名誉教授と小野里憲一先生の尽力により、実務経験豊かな本学卒業生が講師として自らの経験をテーマに講演した。「海外工事監理のノウハウ」野中耕太郎氏（株式会社大林組顧問）、「新たな設計手法BIM」大越潤氏（大成建設株式会社）、「木構造設計」佐藤孝浩氏（桜設計集団）といった内容をもとに、セミナー後には情報交換が行われ、懇親会には後藤治理事長、小野正行近畿大名誉教授も参加した。



INA新建築研究所新社長に加藤朋行氏が就任

加藤朋行氏（1986年工学院大学大学院卒業）は建築学の修士を修了後、INA新建築研究所に入社し、大阪支店や本社勤務を経て全国的に再開発事業や建築設計監理に取り組んで来た。少子高齢化社会や東京五輪、パラリンピックの到来を見据え、地域経済社会を活性化し災害に強い安心・安全なまちづくりを提唱している。就任に際し「2017年竣工の八王子キャンパス新2号館にも会



社として携わる事が出来た。ようやく訪れた母校への係わりを嬉しく思う。100年企業を目指して前進したい」との意気込みを伺った。

ウッドシティTOKYOモデル建築賞 みやむら動物病院



鈴木敏彦先生（本学建築学科）が設計した「みやむら動物病院」（東京都江戸川区）が、東京都において木材活用のモデルとなる建築としてウッドシティ TOKYOモデル建築賞の最優秀建築賞を受賞した。小池百合子都知事は「戦後に植林された森林を国産木材として活用する時期に来ている。東京都では持続可能性が高く心地よい素材として木材の地産地消と、革新的かつモデル的な木材を用いた建築を推進していく」と祝辞を述べた。LVL厚板を初めて構造要素として使用した「みやむら動物病院」は様々なペットを治療する病院として多くの訪問客で賑わっている。

訃報 望月大介先生



名誉教授の望月大介先生が2018年4月20日に79歳にて永眠した。望月先生は1964年に本学建築学科を卒業し、1981年にペンシルヴァニア美術学部大学院修士課程を修了。1964年から母校建築学科にて助手、講師、助教授をへて1995年教授。教鞭を執る傍ら、望月大介建築アトリエとして伊豆の山荘、めじろ台の家、日本鉄鋼ビル、小野田リバーサイドビル、タウンハウス北野、工学院大学附属高等学校校舎他を設計した。退官10年目となる2017年には望月研究室のOB60余名が京王プラザホテルにて集って喜寿をお祝いし、各自の昨今の活躍を望月先生に報告したばかりだった。建築系同窓会一同、心よりご冥福をお祈りする。

訃報 望月洵先生



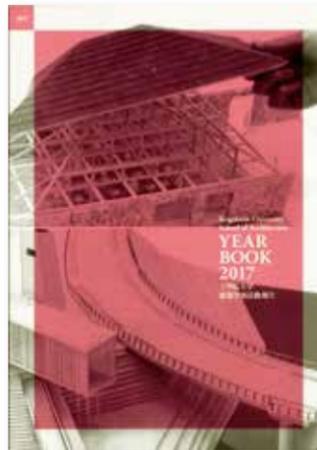
名誉教授の望月洵先生が2018年12月1日に84歳にて永眠した。1956年東北大学工学部建築学科卒業、1968年より工学院大学建築学科にて助教授。1991年に早稲田大学にて「連層耐震壁の強度に関する研究」で工学博士。工学院大学建築学科教授として468名の卒業生を輩出する傍ら、数々の設計を手掛けた。2001年より名誉教授として退官後も構造系OBと2018年5月の「構造シンポジウム」を開催した。主な著書に『構造計画』鹿島出版会、『建築の構造』学献社、『力学と構造フォーラム—建築構造入門』建築技術など。建築系同窓会一同、心よりご冥福をお祈りする。望月洵研究室OBが「偲ぶ会」を本学にて計画中である。

新刊書紹介

2019 vol. 42

Kogakuin University School of Architecture YEARBOOK 2017 工学院大学建築学部活動報告

工学院大学建築学部

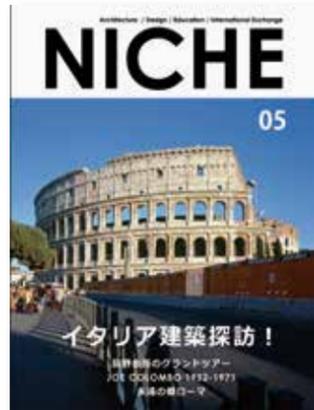


flick studio
200ページ
1,800円+税
2018年5月1日

工学部から名称を改め7年、1000人の卒業生を数えた工学院大学建築学部の一年間の活動を、2018年3月卒業の4期生の卒業研究、修士論文、授業課題の代表作品から包括した。巻頭で野澤康先生はイヤブックをアスリートの記録に例えている。地道な学習、試行錯誤の実験やエスキースや模型製作、真剣勝負の研究発表は、確かに、全身全霊を建築にかけた者たちの取り組みである。

NICHE 05 イタリア建築探訪!

工学院大学建築学部同窓会 NICHE出版会



Opa Press
丸善出版
253ページ
2,400円+税
2018年8月20日

建築を志す者はイタリアを目指す。辰野金吾はコーニススケッチし、古市公威は河川整備を調査し、明治の岩倉使節団はヴェローナ、フィレンツェ、ローマ、ナポリ、ポンペイ、ピサ、ヴェネツィアの名所を版画に記録した。現在の旅行でも外せないローマからはバロック建築24景、ミラノからはジョエ・コロンの発想豊かなプロダクトデザインを紹介。イタリア旅行に必携の書。

ブルーノ・タウトの緑の椅子

1脚の椅子の復刻、量産化のプロセス

緑の椅子リプロダクト研究会編

群馬県の少林寺達磨寺にある緑色の椅子は、ドイツの建築家ブルーノ・タウトが日本滞在中の1935年にデザインしたものだ。仙台の商工省工芸指導所の職人技が可能にした優美な骨組みは、大柄なタウトが自ら座った強度実験によって背もたれの一部が折れてしまった。3次元スキャンで計測し、鈴木研究室率いるチームと天童木工の協働により2018年に蘇えった椅子の秘密を解き明かす。



Opa Press
丸善出版
113ページ
2,400円+税
2018年6月1日

都市木造デザイン大全

安井 昇(著)、日経アーキテクチャ(著編)

このところ木造建築が熱い。全国2700件の建築物はすべて1時間または2時間の耐火性能を備えている。本書に収録された27件の事例を読めば、木造ブームをもたらしたKUS設計の5階建て「下馬の集合住宅」や、鈴木敏彦先生設計のLVL打ち放しの「みやむら動物病院」、RC造と木造とS造の混構造で実現した大空間など、法規と技術の組み合わせ方と耐火のポイントを一気に習得できる。



日経BP社
248ページ
4,200円+税
2018年11月23日

農業のある都市を目指して

—新しい都市計画への問いかけ—

東 正則



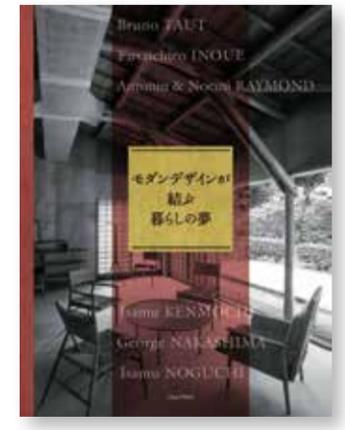
農林統計出版
259ページ
3,000円+税
2018年9月1日

都市と農業が隔離して久しい。都市計画の視点から農業の重要性を鑑み3部作を出版した東先生は本書で古今東西の事例を多面的に説く。イギリスのエベネザー・ハワードの田園都市、ル・コルビュジェの輝ける都市、ヨーロッパのアロットメント・ガーデンは今なお議論の余地がある。日本の1950年から2018年の「都市と農業の攻防史と時代背景」を記したオリジナルの年表は圧巻だ。

モダンデザインが結ぶ暮らしの夢

住田常生、小谷竜介、大村理恵子

高崎市美術館、東北歴史博物館を経て、2020年パナソニック汐留ミュージアムへ同名の展覧会が巡回する。1920年から1990年、工芸がプロダクトや家具や建築に発展する中で現在のデザインが定義された。ブルーノ・タウトと井上房一郎、アントニン・ノエミ・レーモンド、ジョージ・ナカシマ、イサム・ノグチの作品を収録した。それぞれの人生が織りなす交流を記した年表は必見である。



Opa Press
丸善出版
117ページ
4,200円+税
2019年2月1日

現代建築理論序説 1968年以降の系譜

ハリー・フランシス マルグレイヴ(著) デイヴィッド グッドマン(著)
澤岡清秀(翻訳)



鹿島出版会
423ページ
3,600円+税
2018年5月18日

過去の建築に比べ、現代の建築は時に評価が難しい。好みを論じる前に包括的な知識が問われるからだ。もし身近な人が現代建築の全貌を理論と事例を交えて分かりやすく教えてくれるとしたら、それが本書である。澤岡清秀先生が翻訳を手掛けた本書は、CIAM、フラウ、ゲーリー、コールハス、OMA、カラトラヴァ、ピアノ、安藤を説く。読者の脳内が時系列に整理されること請け合いだ。

アールトからはじめるデザイン基礎

北欧の巨匠に学ぶ図法

鈴木敏彦、大塚篤、関谷源次、小俣光一、武藤かおり、香川浩

アールトは建築家がすべてをデザインしていた時代の巨匠だ。大量生産の時代が到来する直前に、ドアノブやツールや住宅を手掛けた。ゆえにアールトの表現技法を学ぶことは、新古典主義、機能主義、北欧モダンへ進化したオリジナルの手法を身に着けることに他ならない。実験住宅コエタロ、パリのルイ・カレ邸の魅力を、模型や図面の制作により手を動かしながら体得できる。



彰国社
142ページ
3,300円+税
2018年5月31日

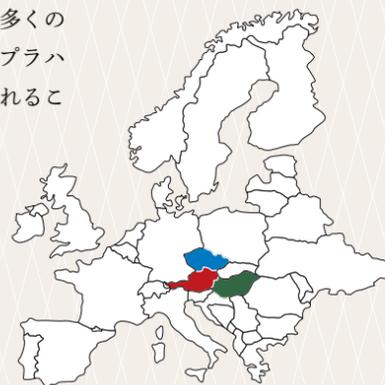
今号で取り上げる「三都」、すなわち、プラハ（Praha）、ウィーン（Wien）（「ヴィーン」の方が原語の発音に近いが、本書では「ウィーン」と表記する）、ブダペシュト（Budapest）は、それぞれ、チェコ、オーストリア、ハンガリーの首都である。第二次世界大戦後の冷戦時代にはチェコとハンガリーは「鉄のカーテン」の向こう側の東側諸国の一員であり、その当時、チェコは東隣のスロバキアと合わせてチェコスロバキア共和国を構成していた。現在は3か国ともEU加盟国であり、オーストリアはユーロを導入しているが、チェコとハンガリーは独自通貨（それぞれ、コルナとフォリント）を使用している。歴史的には第一次世界大戦時までオーストリア＝ハンガリー君主国（Österreichisch-Ungarische Monarchie, Osztrák-Magyar Monarchia）の主要都市であり、近世から近代にかけてハプスブルク家の統治下にあった。

ハプスブルク家（Habsburg）は、1273年、ルドルフ1世（Rudolf I, 在位1273-91）として初めて神聖ローマ皇帝を出した帝国の名門であり、1438年にアルブレヒト2世（Albrecht II, 在位1438-39）が皇帝に即位して以来、帝位を継承していった。アルブレヒト2世の次は再従兄弟のフリードリヒ3世（Friedrich III, 1440-93）が継ぎ、その息子マクシミリアン1世（Maximilian I, 在位1493-1519）がブルゴーニュ公シャルル（Charles le Téméraire, duc de Bourgogne, 在位1467-77）の娘マリー（Marie, duchesse de Bourgogne, 在位1477-82）と結婚したことにより、低地地方などのブルゴーニュ公支配地を継承した。その息子フィリップ（Philippe）がスペイン女王フアナ（Juana）と結婚して、彼らの息子シャルル（Charles quint, Karl V, Kaiser, 皇帝在位1519-56）の代にはスペインとその海外植民地などの広大な領域がハプスブルク家支配下となる。シャルル、すなわち、皇帝カール5世は、1526年にはハンガリー王、ボヘミア王をも兼ねるようになり、両国を支配下に収めた。

ボヘミア王は皇帝選挙での選挙権を持つ、当初

7名の帝国大諸侯、すなわち、七選帝侯の一人でもある。その中心都市プラハは9世紀にヴルタヴァ川（モルダウ川）左岸の丘上に城塞と教会堂が建設されたのが起源であり、これが後のプラハ城塞である（フラッチャニ地区）。10世紀に王国首都となり、973年に司教区が設置されている。12世紀に右岸に市街地が広がり（スタレ・ミェスト地区）、皇帝カール4世（Karl IV, 在位1355-78）（ボヘミア王としてはカレル1世、在位1346-78）治世下、さらに南側に新市街地が誕生した（ノヴェ・ミェスト地

区）。左岸と右岸をつなぐカレル4世橋が建設されたのもこの時代であり、プラハの黄金時代といえる。三十年戦争（1618-48）後には衰退するが、17世紀末には挽回し、ディーンツェーンホーファー（DIENTZENHOFER）父子などの活躍で後期バロック建築が多く登場した。1784年にはフラッチャニ（城町、Hradčany）、マラ・ストラナ（小市街、Malá Strana）、スタレ・ミェスト（旧市街、Staré Město）、ノヴェ・ミェスト（新市街、Nové Město）が結合し、オーストリア＝ハンガリー君主国時代の1880年以降はさらなる発展によって既存建築物が取り壊され、とりわけ、ヴルタヴァ川右岸のユダヤ人街区が一新された。20世紀に入ると、いわゆる「チェコ・キュビズム」による新しい建築が多く、多くの建築家によって試みられた。これら多くの歴史的建造物を包含する形で、1992年、「プラハ歴史地区」として世界遺産一覧表に記載されることとなった（2012年に範囲の変更あり）。



世界遺産都市 プラハ、ウィーン、ブダペシュト ——オーストリア＝ハンガリー君主国の三都

中島智章



プラハ城塞
(中世～近世)



聖ヴィート司教座聖堂
(ゴシック, ネオ・ゴシック)



聖イジー教会堂
(ロマネスク, ルネサンス)



聖ミクラーシュ教会堂
(バロック)



ユダヤ博物館



ストラホフ修道院
図書室群
(バロック)



カレル4世橋
(ゴシック)



市民会館
(歴史主義, 折衷主義)



火薬塔
(ゴシック)



天文時計
(ゴシック)



ティーンの前
の聖母教会堂
(ゴシック)



聖ミクラーシュ教会堂
(バロック)



旧ユダヤ人墓地



黒い聖母の家
(チェコ・キュビズム)



プラハ中央駅
(歴史主義, 折衷主義)



世界遺産都市 プラハ、ウィーン、ブダペシュト
—オーストリア=ハンガリー君主国の三都

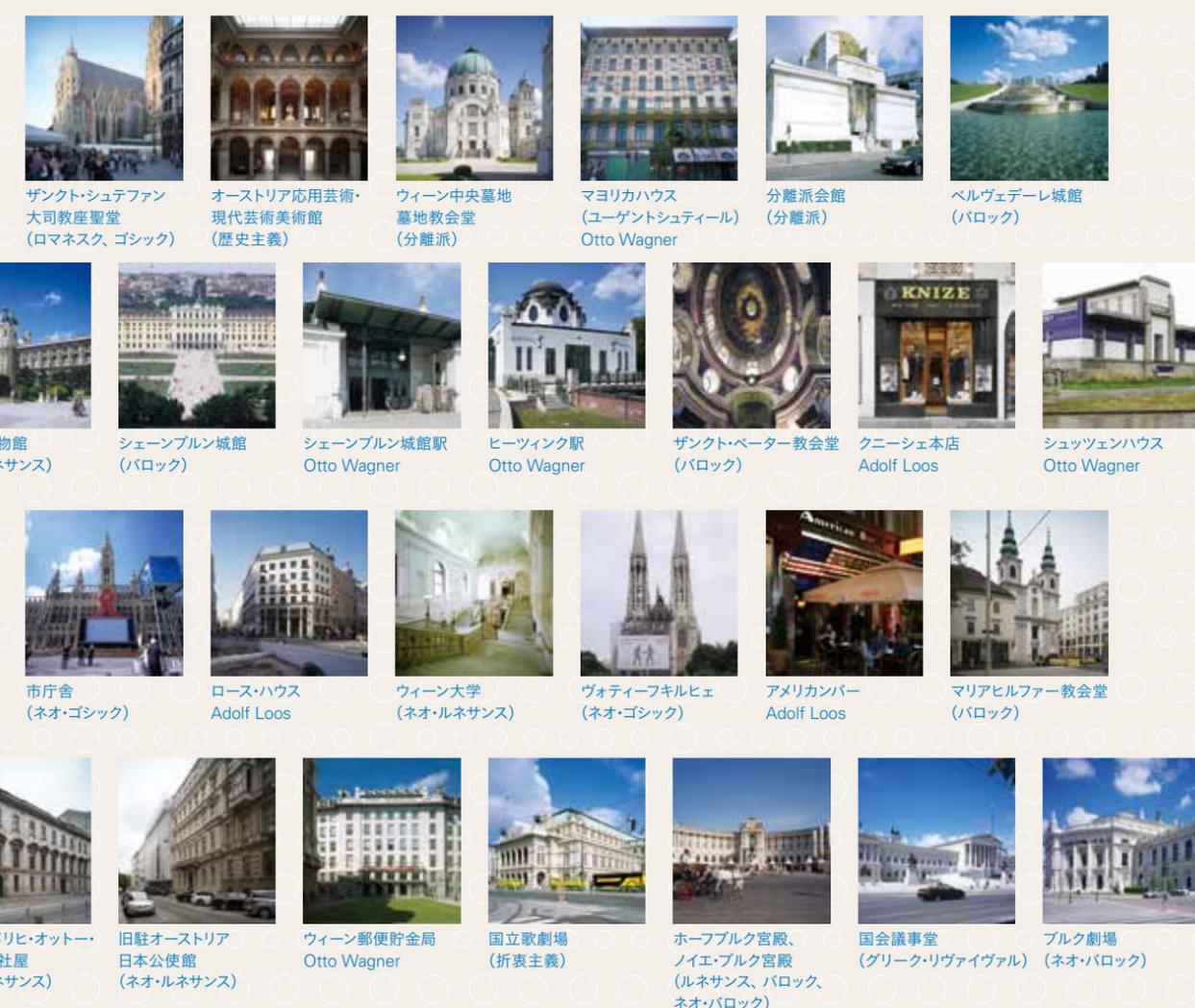


ウィーンは100年頃、トラヤヌス帝によりカストルム (castrum)、すなわち、軍団宿营地として創設された。この時の名称はウィンドボナ (Vindobona) である。このカストルムは規模450メートル×530メートルの長方形平面だった。その南方にカナバエ (canabae)、すなわち、宿营地の兵站を支える村落があり、そこを通る直線道路はヘレンガッセ、アウグスティナーシュトラッセ、レンヴェーク (Herrengasse, Augustinerstraße, Rennweg) として今も残る。395年にはパンノニア国境地帯が崩壊し、ローマ人が去ってウィンドボナは放棄されたが、2~3メートルの厚さの囲壁は12世紀末まで残存し、少なくとも791年にはその内側に人が再び住み始めた。1050年には築城の外側で商人街が形成され始め、1200年頃にオーストリア公レオポルト4世によって市域が拡張されている。ハプスブルク家の支配に帰したのは1278年のことである。プラハと同じく、17世紀には三十年戦争、さらに第2次ウィーン攻囲 (1683) と続き、荒廃したが、17世紀末からの復興し、フィッシャー=フォン=エルラッハ (Johann Bernhardt FISCHER VON ERLACH, 1656-1723) やヒルデブランドト (Johann Lucas von HILDEBRANDT, 1668-1745) らによってバロック建築の大建設時代を迎えた。中でも前者によるシェーンブルン城館 (Schloss Schönbrunn) はドイツ語圏のバロック宮殿建築の代表例であり、1996年に「シェーンブルン宮殿と庭園群」として世界遺産一覧表に記載された。

その後、18世紀を通じて、オスマン帝国の退潮やポーランドの混乱などもあり、中央ヨーロッパにおけるハプスブルク帝国の勢力は広がって

いたが、1804年、ナポレオン・ボナパルト (Napoléon BONAPARTE, 1769-1821) が「フランス人たちの皇帝」(Empereur des Français) に即位すると、その後の混乱を予感したように、同年、神聖ローマ皇帝フランツ2世 (Franz II, 在位1792-1806) は、オーストリア皇帝フランツ1世 (Franz I, Kaiser von Österreich, 在位1804-35) をも号することとなった。彼の予測は的中し、ナポレオンの圧力が増加する中、1806年、神聖ローマ帝国を解散した。ナポレオン没落後にはクロアチア、スロベニア、旧ヴェネツィア共和国領であるヴェネト地方などの北イタリアをも支配したが、1860年のイタリア王国の成立と北イタリア諸領の喪失、1866年の普墺戦争の敗北などが続き、帝国の安定を図る必要性が高まって実施されたのが、1867年のアウスグライヒ (Ausgleich) だった。オーストリア=ハンガリー君主国の始まりである。時の皇帝はフランツ・ヨーゼフ1世 (Franz Josef I, 1848-1916) だった。ウィーンの都市近代化が進んだのは、このオーストリア=ハンガリー君主国時代である。きっかけとなったのは、アウスグライヒ (「妥協」の意) に先立つ1857年、フランツ・ヨーゼフ1世が、旧市街地を囲む稜堡などの都市築城の撤去を決断したことである。その跡地に整備されたのがリンクシュトラッセ (Ringstrasse) であり、それ以降、様々な様式建築がリンク沿いに建設されていった。これら中世から近代にかけての建築群の多くを含む形で、2001年、「ウィーン歴史地区」として世界遺産一覧表に記載されたが、高層化を伴う再開発計画のため、残念ながら2017年に危機に瀕した世界遺産一覧表に記載されることとなった。

Austria



Budapest

Hungary

一方、ブダペシュトの都市近代化も同じ頃に大きく進んだ。この町はドナウ川の両岸に広がっているが、もともとは右岸（西側）のブダと左岸（東側）のペシュトという別々の町だった。ブダの方が歴史が古く、ブダ城塞を中心として貴族の邸宅や聖マーチャーシュ教会堂、修道院などが位置する。ペシュトの方は平民たちの商工業地区であり、現在のブダペシュトの中心市街地はこちらにある。オーストリア=ハンガリー君主国時代に大規模な都市計画が行われ、今も様式建築群が建ち並ぶ。この辺りにマジャール人（ハンガリー人）が定住し始めたのはアールパード（Árpád）に率いられていた頃の9世紀末であり、13世紀にはモンゴル人の侵入でハンガリー王ベーラ4世（Béla IV, 在位1235-70）が敗死するなど荒廃したが、その後の14世紀の復興期にブダが王国首都となった。だが、1541年にブダとペシュトはオスマン帝国領となり、約150年間のオスマン帝国支配が続いた。この間、ハンガリー王国の中心はブラチスラバ（現在のスロバキアの首都）などに移り、とりわけ、ペシュトは著しく衰退した。17世紀末にはハンガリー王国に復し、ハプスブルク家支配下となる。オーストリア=ハンガリー君主国時代の1873年にブダとペシュトが正式に合併して「ブダペシュト」となった。先述の通り、この時代に様々な様式建築が建

設された。代表作はドナウ川に面したペシュト側に建設された国会議事堂（1885-1902）であり、ブダペシュト東駅、鎖橋、1896年の「建国千年祭」博覧会関連の建築群、アンドラーシ通りとその両側の様式建築群、そして、アンドラーシ通り直下を走るヨーロッパ大陸初の地下鉄1号線などが見どころとなる。また、19世紀末から20世紀初頭にかけて様式にとらわれない新しい建築を創造したレヒネル・ウドゥン（LECHNER Ödön, 1845-1914）の一連の作品も見逃せない。それらの多くは1987年に世界遺産一覧表に記載され、2002年にアンドラーシ通りなどを含む形で拡張されて「ドナウ河岸、ブダ城地区及びアンドラーシ通りを含むブダペスト」の名称で記載されることとなった。

上でみてきたように、プラハ、ウィーン、ブダペシュトはそれぞれ異なる民族により独自の建築・都市文化を紡いできており、それが評価されて3都市いずれも歴史的中心市街地が世界遺産一覧表に記載されることとなった。一方で、これらの都市の現在の町並みを作り上げている建築物の多くは、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのオーストリア=ハンガリー君主国時代に、近代的都市計画を伴って建設されていったものでもある。それぞれ異なりつつも共通点もある「三都」の建築や都市を紹介していく。



Nakashima Tomoaki
 1993 東京大学工学部建築学科 卒業
 1995 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程 修了
 2001 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程 修了
 2011 工学院大学建築学部建築デザイン学科准教授、建築史家



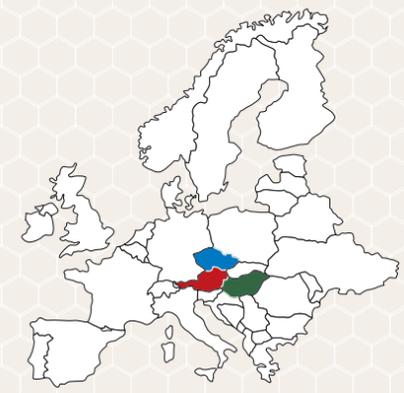
聖マーチャーシュ教会堂 (ゴシック、ネオ・ゴシック) 漁夫の稜堡 (ネオ・ロマネスク) セーチャーニ鎖橋 (近代化遺産) 聖アンナ小教区教会堂 (バロック) ブダペシュト東駅 (歴史主義、折衷主義) ニューヨーク・パレス (ネオ・バロック)



国会議事堂 (ネオ・ゴシック) 旧郵便貯金局 (レヒネル) 聖イシュトバーン教会堂 (歴史主義) 聖テレーズ小教区教会堂 (ネオ・バロック) ケレベシ墓地 (レヒネル・ウドゥンの墓) ハンガリー地質学研究所 (レヒネル)



ヘルミナ通り47番地の住宅 (レヒネル) 建国千年祭万博の歴史館 (歴史主義) セーチャーニ温泉 (ローマン・リヴァイヴァル) 1913 ロバート・キャバ 現代写真センター (レヒネル) ブダ城塞 (バロック、ネオ・バロック)



世界遺産都市 プラハ、ウィーン、ブダペシュト
 —オーストリア=ハンガリー君主国の三都



図1 ペルフジモフの家 ドレスラ邸 Villa Jana Drechsela, Pelhřimov, 1912-1913
パヴェル・ヤナーク Pavel Janák

チェコの結晶体

平井 充

図2 ファーラ邸 Villa Fara, Pelhřimov, 1913-1914
パヴェル・ヤナーク Pavel Janák



チェコの首都プラハは建築博物館と呼ばれる街だ。歴史的な様式建築が並ぶ街並みを歩くと、しばしば結晶体のような極めて抽象的な建築が現れる。それがチェコ・キュビズム建築である。20世紀初頭のヨーロッパでは、数多くの建築運動が盛んであった。オーストリア・ハンガリー帝国の末期になると、チェコでも独自のアイデンティティを求める若者たちが現れた。チェコ・キュビズムは、そういった芸術家たちの手から産声をあげた。彼らの指導者であったパヴェル・ヤナーク（1882-1956）は、1911年に「多角柱と角錐体」という論文を発表し、キュビズム建築の誕生に貢献した。しかし、この運動も1911年から25年までという短い間の出来事だった。この短い時間に生み出された建築や家具、そして様々な工芸品をみると、時代の徒花というにはあまりにも可愛らしい。これらには、結晶体という造形に拘った若者たちによる異彩を放った魅力がある。

ペルフジモフの家、ドレスラ邸（1912-1913）[\[図1\]](#)は、パヴェル・ヤナークの設計である。ペルフジモフという町は、プラハから東南に車で1時間ほど下った場所だ。この小さな町には、ヤナークが設計した住宅が2件ある。このドレスラ邸は、その



図3 ネクラノヴァ通りの集合住宅 Hodek Apartment Building, Vyšehrad, 1913-1914
ヨゼフ・ホホル Josef Chochol



図4 コヴァジョヴィチ邸 Villa Bedřich Kovařovic, 1912-1913
ヨゼフ・ホホル Josef Chochol

町の郊外に建っており、最初のキュビズム建築と言われている。民族カラーと言われる赤とクリーム色のコントラストが美しい。住宅然とした佇まいであるが、ポーチの列柱と塀の支柱が象徴的で、柱頭は鉱物の結晶のようにになっている。もう一つはファーラ邸（竣工1913-1914年）[\[図2\]](#)といい、町の中心広場に面した住宅である。これは、もともとバロック様式の住宅としてあったものの改築である。建物の構成を変えずに表面を結晶化している。

ネクラノヴァ通りの集合住宅（1913-1914）[\[図3\]](#)は、ヨゼフ・ホホル（1882-1956）の最高傑作といわれる作品である。プラハ中心地から南に3キロほど離れたヴィシェフラト地区という7世紀の城塞跡がある場所だ。この付近には、ホホルの設計による作品がこの集合住宅のほかに2つある[\[図4, 5\]](#)。ネクラノヴァ通りの集合住宅は、やや鋭角の敷地に建っており、そのコーナーを強調するようなデザインとなっている。ヤナークとは違って色彩は無く、造形力のみで勝負している。そのため、光のあたり方によって様々な表情を持っている。結晶体という概念を見事に建築の造形に昇華させた作品である。



図5 ヴィシェフラトの三世帯住宅 Triple Block House, Vyšehrad, 1912-1913
ヨゼフ・ホホル Josef Chochol



Hirai Mitsuru
2004 工学院大学建築学科2部卒業(初田研究室)
2006 工学院大学大学院建築学専攻修士課程修了(初田研究室)
2009 工学院大学大学院建築学専攻博士課程満期退学(初田研究室)
2009 一級建築士事務所Drawing notes設立
2015 株式会社メグロ建築研究所に改組 代表取締役

キュビズム建築を巡る

プラハ



1 ヴィゼフクトの三世帯住宅
1913
Josef Chochol



2 コヴァジョヴィチ邸
1913
Josef Chochol



3 集合住宅
1913
Antonín Belada



4 ネクラノヴァ通りの集合住宅
1914
Josef Chochol



5 ダイヤモンド館
1913
Emil Králíček



6 アドリア宮
1925
Pavel Janák



7 ユングマノヴォ広場の街灯
1912
Emil Králíček



8 プルノ銀行
1923
Josef Gočár



9 黒い聖母の家
1912
Josef Gočár



10 チェコスロヴァキア・レジオン銀行
1923
Josef Gočár



11 Švanda劇場
1920
Ladislav Machoň



12 二世帯住宅
1913
Josef Gočár



13 教員協同組合の集合住宅
1919
Otokar Novotný



14 教員協同組合の集合住宅
1923
Otokar Novotný



15 F. J. Maternaビル
1920
Rudolf Stockar



16 Dáblice 墓地正門
1913
Vlastislav Hofman

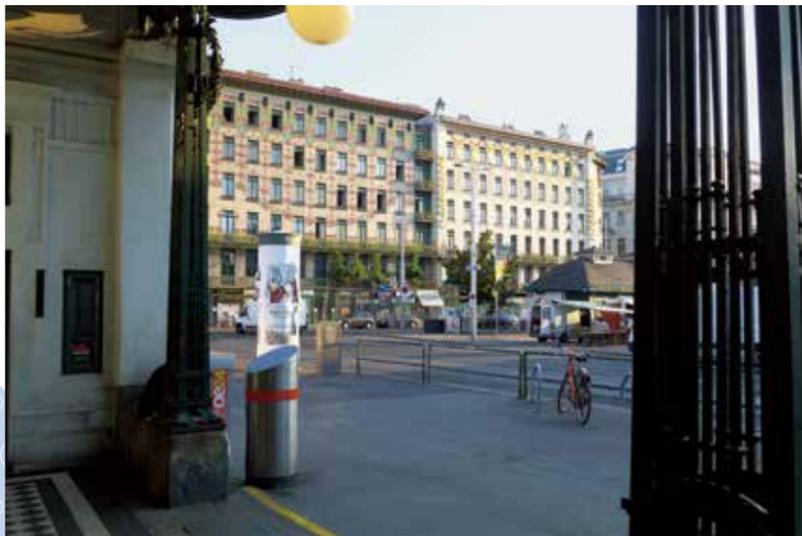


図1 地下鉄の出入口から見るリンケ・ウィーンツァイレの集合住宅 左側が通称マヨリカハウス



図2 リンケ・ウィーンツァイレの集合住宅 手前がナッシュ・マルクト



図4 ウィーン郵便貯金局 ちょうどこのあたりが市壁であった

ウィーンの近代化とヴァーグナー

土屋和男

オットー・ヴァーグナー (1841-1918) は19世紀末ウィーンを代表する建築家である。代表作は、マヨリカハウス、カールスプラッツ駅、郵便貯金局、アム・シュタインホーフ教会などで、それまでの古代ローマやゴシックなど過去の様式のリヴァイヴァルから決別＝分離し、近代の先駆けとなる建築デザインを示した。当時、ヨーゼフ・ホフマンやヨーゼフ・オルブリヒといったウィーンの若手建築家たちは、ヴァーグナーを手本として、自らのスタイルを分離派（ゼセッション）と称し、フランス・ベルギー発のール・ヌーボーと並んでモダン・デザイン運動の核となった。というのが、ヴァーグナーのデザイン史上のアウトラインだろう。しかし、ウィーンの地図とあわせて見ると、ヴァーグナー

の作品群はデザインばかりではなく所在地もまた、この街の近代化と重要な関連をもっているのだ。

マヨリカハウス [図1] は隣接の建物とあわせてリンケ・ウィーンツァイレの集合住宅といい、ファサード（建物の顔）にピンクの花柄のマジョリカタイルが張られている。この建物の前にはナッシュ・マルクトという全長約500mの市場に並行して地下鉄が走っているが、市場はウィーン川を暗渠にした場所で、集合住宅はこの開発と同時期に建てられたものであった [図2]。集合住宅前の地下鉄駅もヴァーグナーの設計による。地下鉄の駅で最も有名なのが、カールスプラッツ駅 [図3] である。地下鉄、トラムが交差する交通の要衝で、カール教会前の広場とそれを囲む建築物の総合的計画案をヴァーグナーは繰り返し描いていた。

図3 カールスプラッツ駅 向かい合っているのが地下鉄の出入口、奥に見えるのがカール教会



ウィーン郵便貯金局 [図4,5] はヴァーグナーデザインの頂点として知られるが、これが建つ場所がかつて街全体を囲んでいた市壁のちょうど上にあたる。市壁は19世紀半ばに取り壊されて、その外側の緩衝地帯とともに市域を大きく広げる開発がなされた。そこに通った環状道路はリングと呼ばれ、これに沿ってハプスブルク家の首都を飾る大建築がつくられていったのである。郵便貯金局はこれらの最後の記念碑とも言えるかもしれない。

アム・シュタインホーフ教会 [図6] は郵便貯金局と並ぶ後期の傑作であるが、これは西郊の広大な精神科病院敷地内にあり、こうした施設が計画されるのも近代ならではのことである。この先も西に向かって森が続いているが、その中にヴァーグナーの2つの別荘（ヴィラ）やホフマン設計のサナトリウム（結核療養所）などもある。



図5 ウィーン郵便貯金局 ガラスとアルミが作り出す夢のような空間



Tsuchiya Kazuo

1992 工学院大学工学部建築学科卒業（初田研究室）

1994 芝浦工業大学大学院工学研究科修士課程建設工学専攻修了

2000 芝浦工業大学大学院博士課程地域環境システム専攻修了、博士（学術）

2017 常葉大学造形学部造形学科教授



図6 アム・シュタインホーフ教会 森の中の最頂部に建っている

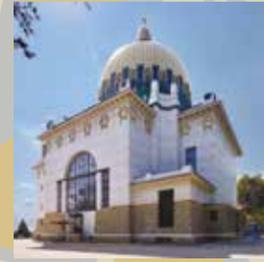
ヴァーグナー、ロース、ホフマンの
建築を巡る

ウィーン

- 20** Spitzer House
1902
Josef Hoffmann
- 21** Moser-Moll Double House
1901
Josef Hoffmann
- 22** Second Moll House
1903
Josef Hoffmann
- 23** Ast House
1911
Josef Hoffmann
- 24** Knips House
1925
Josef Hoffmann



12 ヴァーグナー邸 I
1888
Otto Wagner



13 聖レオポルト・シュタインホーフ教会
1907
Otto Wagner



14 シュタイナー邸
1910
Adolf Loos



15 ホーフパビリオン
1898
Otto Wagner



16 ヴァーグナー邸 II
1913
Otto Wagner



17 プーカースドルフ・サナトリウム
1904
Josef Hoffmann



18 Skywa-Primavesi邸
1915
Josef Hoffmann



19 Scheu House
1913
Adolf Loos



3 分離派会館
1897
Joseph Maria Olbrich



1 ビルグラムガッセ駅
1901
Otto Wagner



2 ケッテンブリュッケンガッセ駅
1899
Otto Wagner



3 リンケ・ヴィーンツァイレの集合住宅
1899
Otto Wagner



4 カールスプラッツ駅
1899
Otto Wagner



5 カフェ・ムゼウム
1899
Adolf Loos



6 ロースハウス
1911
Adolf Loos



7 アメリカンバー
1908
Adolf Loos



8 アンカーハウス
1895
Otto Wagner



9 Knize本店
1921
Adolf Loos



10 郵便貯金局
1912
Otto Wagner



11 レンダー銀行ビル
1884
Otto Wagner





応用美術館 Photo: Mihály Ludmann
東洋的なドームは緑と黄色の釉薬がかかったタイルで覆われた。

ハンガリー国立地質学研究所の廊下
柱の起伏、スタッコの天井が海辺、洞窟、鉱物へと誘う。
建物の機能と装飾が結びついた。



郵便貯金局
給与の低い人々の貯蓄を支援する施設。
倹約を象徴する黄色い蜂が柱を登る。



地質学研究所



地質学研究所の扉のエッチングガラス



集合住宅の金属製の階段装飾

レヒネル・ウドゥンの生涯と作品

ミハイ・ルドマン (翻訳: 杉原有紀)

レヒネル・ウドゥンは1845年8月27日ハンガリーのペシュトにて裕福な中産階級に生まれた。父親が所有するレンガ工場で、子供の頃から建設材料としての土や、装飾品を作る柔らかいテラコッタと慣れ親しんだ。釉薬をかけたマヨルカ陶器もこの工場で作られていた。1866年、ベルリンの建築アカデミーに入学し、当時のヨーロッパ全体で支配的だったネオ・ルネサンスを学んだ。ハンガリーに戻ると、両親に反対されたがイルマと結婚した。また、アカデミー時代の友人と設計事務所を立ち上げた。人口の急増に対応すべく集合住宅を建て、若くして成功をつかむが、1874年に妻が亡くなった。二人の子供を妻の両親に預け、パリで中世の建築の修復を学びつつ折衷主義に注目した。レヒネルは

1879年にハンガリーに戻ると、ハンガリー国営鉄道年金機構の設計でゴシックの要素とフランスやイタリアのルネサンス様式のミックスに挑戦した。一階にはカフェを作り、家具も自らデザインした。18世紀後半から文学や芸術の分野で民族意識が高まったが、ハンガリー建築にはアジアの内部のハンガリー人のルーツとは結びついていなかった。そこでレヒネルは自らの様式にハンガリー文化の民族的モチーフ、意匠、テーブルクロス、陶芸、木彫、民話、音楽を取り入れた。この運動は分離派、ユージェントシュティール、アール・ヌーヴォー、さらには「モダン様式」と言われている。さらにレヒネルはイギリスで建築とインドやペルシャなどオリエントの装飾芸術を学んだ。

ヨーロッパの過去の建築様式、オリエンタルな

建築と装飾、ハンガリーの民族的モチーフの知識、そして19世紀に橋や鉄道に使われた鋼鉄の構造に着目し、レヒネルは1896年に応用美術館、1899年にハンガリー国立地質学研究所、1901年に郵便貯金局を設計した。応用美術館では東洋的なドームを設け、イスラム、ムーア、インドを思わせる要素でホールを囲った。地質学研究所では三葉虫やアンモナイトを思わせる装飾を施し、屋根には3人の男性が地球を支えるモチーフを掲げた。マホガニーのキャビネット、ドア、窓、エッチングのガラスもレヒネルが設計した。郵便貯金局の屋根の豊かな装飾は、通りからは見えず人々は困惑した。「通行人からは見えないのに、なぜそんなに努力を重ねるのか」という問いに、レヒネルは「鳥が空から見て自分の作品を楽しむから」と答えた。

1906年に論文を発表すると追随する者が出て来

た。晩年、レヒネルはブダペストの集合住宅や学校を手掛けた。その後様式は単純化し、中世建築へと変わっていった。

1914年6月10日に亡くなると、葬儀では数千人が追悼し、ケレペシ墓地に葬られた。墓碑は単純なオベリスクだが、真の記念碑は彼の建築そのものである。ハンガリーの歴史、そして世界の建築において画期的な作品である。



レヒネル・ウドゥンの墓



Mihály Ludmann
画家、美術史家、教師
1989 エトヴェシュ・ロラント大学哲学学士
2014 ハンガリーの歴史I 修士
2015 ハンガリーの彫刻修士
2017 ハンガリーの歴史II 修士
絵画史の講演や芸術評論を手掛ける。著書に『Lechner összes.』(レヒネルのすべて) 共著Halász Csilla, Ludmann Mihály, Viczián Zsófia
Látóhatár Kiadó Kft出版、2001年

レヒネル・ウドゥンの建築を巡る
ブダペシュト



1 旧郵便貯金局
1901



2 住宅
Mándl Pál háza
1876



3 共同住宅
Bérház
1874

10



10 ヘルミナ通り47番地の住宅
1907



11 住宅
Zala György villája
1901



12 ハンガリー国立地質学研究所
Magyar Állami Földtani Intézet
1899

2



4 住宅
Prímayer János háza
1872



5 集合住宅
MÁV Nyugdíjintézet bérháza
1884

11

12



7 旧トナーネットビル Thonet-ház
1888-1889
Váci utca 11/A

1

3

4

5

6

7

8

9



8 集合住宅
Verme Gyula bérháza
1911

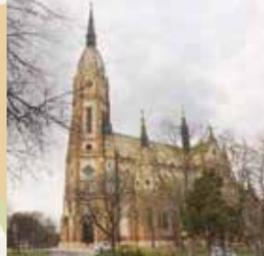


6 ロバート・キャバ現代写真センター
1912

13



13 妻イルマの墓
1874
Fiumei úti temető.



14 教会
Szent László-
plébániatemplom
1897



15 高校
Szent László Gimnázium
1915

18

17



9 集合住宅
Kecskemét város pesti bérháza
1874

19

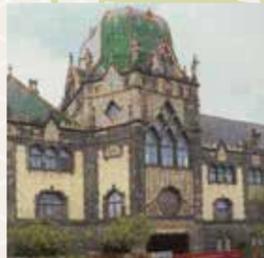
16



16 学校
Vajda Péter utcai iskola
1914



17 レヒネル・ウドゥンの
集合住宅
1895



18 ブダペシュト応用美術館
1896



19 集合住宅
Lechner Gyula bérháza
1900

14

15

若者よ、旅に出よ!

工学院大学建築学部同窓会では、
在学生の海外研修をサポートしている。
2018年度の海外渡航奨励金制度を
利用した学生たちからレポートが届いた。

NICHE Passport

海外建築レポート



イタリア建築旅行記

江森健人

→P.34

Emori Kento / March 2-8, 2018 / Italy

- Mar. 2 成田空港発 ローマ着
- 3 ジュピター教会、ローマ現代アート美術館MACRO
- 4 コロッセオ、バラティエーノの丘
- 5 アラ・パチス、パンテオン神殿
- 6 MAXXI、アウディトリウム音楽公園
- 7 ポポロ広場、ヴィラ・ジュリア国立博物館、ローマ発
- 8 成田空港着



スペインで感じる「新」と「古」の構造美

松田貴裕

→P.36

Matsuda Takahiro / February 19 - March 4, 2018 / Spain

- Feb. 19 成田発 バレンシア着
- 20 芸術科学都市
- 21 バレンシア闘牛場、オセアノグラフィック水族館、バレンシア中央市場
- 22 バレンシア発 バルセロナ着
- 23 サグラダ・ファミリア、カラトラバ橋、サンタ・マリア・ダル・マル教会
- 24 モンジュイックタワー、オリンピックスタジアム、モンジュイック城、バルセロナパビリオン
- 25 グエル公園、カサミラ、コロニア・グエル
- 26 バルセロナ発 ビルバオ着
- 27 スビスリ橋、ビスカヤ橋、グッゲンハイム美術館、サンティアゴ大聖堂
- 28 ビルバオ発 マドリード着
- Mar. 1 トレド(日帰り)
- 2 マドリード王宮、マヨール広場、アルムデナ大聖堂
- 3 マドリード発
- 4 成田着



「熱い」国 シンガポールへ

岡嶋千尋

→P.38

Okajima Chihiro / March 2-9, 2018 / Singapore

- Mar. 2 成田空港発 チャンギ国際空港着
- 3 フォート・カンニング公園、クラーク・キー、サンテックシティ、富の噴水、ピシャンパーク
- 4 マリーナベイ・サンズ、マーライオン公園、シンガポール・シティ・ギャラリー
- 5 スンガイ・ブロー湿地保護区、アラブ・ストリート
- 6 パークロイヤル、シンガポール植物園、シンガポール動物園、ピボシティ
- 7 ランボル・スタジオ・ドライザイテル見学、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ
- 8 プラナカン通り、ピナクル・アット・ダクストン、マウントフェーバー公園、ヘンダーソン・ウェーブ・ブリッジ
- 9 チャンギ国際空港発 成田空港着



神聖な街 ローマの教会堂を巡る

三上真実

→P.40

Mikami Manami / September 2-8, 2018 / Italy

- Sep. 2 羽田発
- 3 ローマ着
サン・カルロ・アッレ・クアトロ・フォンターネ聖堂
プロバガンダ・フィーデ宮
サンタンドレア・デッレ・フラッテ聖堂
ヴェネツィア広場 カンビドーリオ広場
コロッセオ
- 4 サン・ピエトロ大聖堂
パチカン美術館
サンタンジェロ城
サン・フィリッポ・ネーリ修道院
サン・ジョバンニ・ディ・フィオレンティーニ聖堂
- 5 サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂
サンタ・マリア・デッリ・アンジェリ聖堂
サンタ・マリア・デッラ・ヴィットーリア聖堂
バラッツォ・バルベリーニ
サンジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂(ラテラノ洗礼堂)
- 6 サン・ピエトロ大聖堂
サンタンナ・ディ・バラフレニアリ
サンジョバンニ・ディ・フィオレンティーニ聖堂
サン・フィリッポ・ネーリ修道院
バラッツォ・ジュスティニアニ
サンティーボ・アッラ・サビエンツァ聖堂
サンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂
パンテオン
スカラ・サンタ
サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ聖堂
- 7 ローマ発
- 8 成田着



過去と未来が混在するヨーロッパ

小野亜純

→P.42

Ono Asumi / May 13 - June 12, 2018 / Italy, Spain, France, Swiss

- May.13 - 26 ベネチア大学にてワークショップ
- 27 ベネチア発 バルセロナ着、ガウディ建築巡り
- 28 ガウディ建築、北部近代建築巡り
- 29 バルセロナパビリオン、モンジュイック周辺
- 30 ニーム経由ベルフォールへ移動、カレダール
- 31 ロンシャン礼拝堂チューリッヒへ移動、ロンシャン礼拝堂
- Jun. 1 バーゼル
- 2 ベルン、ルツェルン
- 3 ミラノ経由、バルマへ移動
- 4 ラスベツィアへ移動
- 5 ローマへ移動
- 6 ボンベイ
- 7 フィレンツェ
- 8 MAXXI、MACRO他美術館巡り
- 9 サン・ピエトロ寺院他宗教建築、広場巡り
- 10 コロッセオ他史跡巡り
- 11 ローマ発
- 12 成田着



崖に沿う集落 サントリーニ島・フィラ

大野由

→P.44

Ohno Yu / February 18-28, 2018 / Greece

- Feb. 18 羽田発
- 19 サントリーニ着
- 20 フィラ
- 21 フィラ、フィロステファニ
- 22 アクロティリ遺跡、レッドビーチ
- 23 イア
- 24 フィラ
- 25 サントリーニ発 アテネ着
- 26 アクロポリス、古代アゴラ、パナティナイコ・スタジアム、オリンピエイオン
- 27 アテネ発
- 28 成田着



イタリア国立21世紀美術館 (MAXXI)

建築空間を体験する

実際に見た建築。体感した建築空間。シークエンスから見えてくる風景。これらは全て自分の記憶に深く刻まれる。雑誌で見た建築を目の前にし、分析した図面を思い浮かべ歩く。初めて建築を見て感動した。自分の建築人生の中で大きな分岐点にあるイタリアでの建築体験を記す。

旅行記

イタリアは古典建築が多く建ち並ぶ古き良き街である。過密に建てられた建物の中に突如に現れる広場。広場に面して商店やレストランが並び、建物と広場の良い関係性を感じる。広場では人々はジェラートを買って食べ、噴水を中心に賑わう。そこには日本では見られない風景が広がっていた。街を見るだけで多くの刺激を受ける。建築も同じで

ジュビリー教会



イタリア建築旅行記

Emori Kento / March 2-8, 2018 / Italy

パンテオン



ある。日本にないスケールとデザインの建築を見の中で、自分の考えや意識が大きく変化した。

「パンテオン (Pantheon)」、紀元120年代に建てられた建物。大空間の天井にぽっかり空いた穴。昔は日時計として役割を果たしたこの建築では、桁違いのスケール感に圧倒されたと同時に違和感を覚えた。建物の中であるにもかかわらずそこには光と雨が入り込み、内と外の曖昧な場所性を感じる。大きな穴を中心に人々が回遊し天井や周りの展示にカメラを向ける。天井の穴を見ていると時間を忘れどこか神秘的にも感じる。古代に人々が手で作り上げたと思えない程の迫力と精巧さを感じた建築である。

「ジュビリー教会 (Jubilee Church)」町の中にある小さな教会。設計はリチャード・マイヤー。湾曲した白いコンクリートの壁が3枚ズレて配置されることで大きな空間と小さな空間を分けている。アプローチを進むとリチャード・マイヤー特有の独立した庇が待ち受ける。そこから中に入り壁を越えると三層吹き抜けの大空間、祈りの場へと進む。内部空間は全方向にガラスが配置され外にいるような感覚を覚える。白い大きな壁によって仕切られた大空間は、壁から反射した柔らかい光で満ち、外部よりも明るい空間になる。神に祈りを捧げる人を明るい空間が包み込む。大きな3枚の壁を大胆に配置した建築だがそこには柔らかい光の落ちる心地よい空間が広がっていた。

「イタリア国立21世紀美術館 (MAXXI)」建築家ザハ・ハディドが設計したイタリアを代表する美術

歩いていると突如現れる広場(ボポロ広場)



Roma

館。中には現代美術が展示されている。全体がコンクリートの曲面で構成され、大きなスケールの建物は壁厚や柱の太さまで大きな寸法で作られている。入口を入ると吹き抜けの空間が広がる。曲線で構成されるこの美術館は複雑な空間で構成されているが、展示室をつなぐスロープや通路によって全体がシームレスに繋がる。圧巻の建築空間と断面的に考えられたシークエンス、曲面で構成されたディテールが建築の良さとして際立って見えた。一方で順路の最後の大きな窓からはあまり良い景色が見えず残念に思った。緩いスロープを登り見えてくる窓からローマの街並みが一望出来たら気持ち良いと感じた。また、ディテールを格好よく見せるためか入り口に庇がなかった。大きなコンクリートの曲面にガラスがはめ込まれているディテールはかっこよく見えたが、利便的に問題があるのではと感じる部分もあった。利便性をどこまで優先させるべきか検討の余地があるが、見た目のデザインにこだわりすぎるのもよくない。圧倒的造形力を持つ中で周囲の環境や人々の見え方、断面的に繋がる空間構成から、形態だけでなく建築の魅力を感じた。

イタリアへ行って

今回約1週間程イタリアに滞在した。様々な建築を見の中で、多くの刺激を受けた。都市の作りや建物の歴史、法律など日本と大きく異なる場所で日本では味わうことのできない風景や空間体験をした。建築にはその場所の歴史や環境にあった姿がある。その土地の歴史、都市、地形などを考えそれらのコンテクストに応える建築こそ自分の目指す建築である。



江森健人
Emori Kento

1997
埼玉県熊谷市生まれ

2015
埼玉県立本庄高等学校卒業

2015
工学院大学建築学部総合入学

2018
工学院大学建築学部
建築デザイン学科
(澤岡研究室)

将来の夢
建築家として個展を開く
自己の作品集の出版

密接して建つ建物を作る街並み





スペインで感じる「新」と「古」の構造美

Matsuda Takahiro / February 19 - March 4, 2018 / Spain



芸術科学都市 科学館や劇場、プラネタリウム、水族館が入った複合施設

旅の目的

ヨーロッパには、芸術性の高い歴史ある建築物が数多く残っている。日本では、地震を考慮して柱や梁などの部材を大きくし強固に設計しなくてはならない。一方で、地震がほとんどない国では、最新技術を用いて幾何学的な建築を造る事ができる。中でもスペインは、「新」と「古」の技術力を代表するサンティアゴ・カラトラバとアントニ・ガウディの出身国である。構造を専攻している私にとってこの二人の建築物は大変興味がありスペインに渡航することを決めた。

最先端の構造家 サンティアゴ・カラトラバ

サンティアゴ・カラトラバはスペインの構造家である。彼の出身地でもあるバレンシアの芸術科学都市(Ciudad de las Artes y las Ciencias)には代表作が数多く立ち並ぶ。こちらは名の通り芸術と科



コロニア・グエル 石造のアーチ構造と薄暗い空間が特徴的な世界遺産

スピスリ橋 湾曲したアーチから張られた傾斜を変えるケーブルが印象的な歩道橋



カラトラバ橋 異なる角度のアーチから成る構造体が両端を支える吊り橋



学のための複合施設であり、科学館や劇場、プラネタリウム、水族館などがある。この施設のほぼ全てはカラトラバが設計した。白を基調とした構造体は生物の骨格からイメージしたものだ。構造の細かいディテールや複雑さは実際に見ないとわからないことが多く、時間が過ぎるのを忘れるくらい見入ってしまった。さらに、構造体がデザインであるこれらの建築が周りの水面に映り込んだ情景には今までにない高揚感を感じた。

カラトラバの作品で、建築以外に有名なのが橋である。橋のデザインは建築と異なり、構造が全てであるため、美しく見せるためには力学とデザインを同時に考えなくてはならない。カラトラバの作品から、構造デザインの美しさや難しさを改めて学んだ。

歴史的建築家 アントニ・ガウディ

ガウディ設計のサグラダ・ファミリアは誰もが知っている有名建築だ。この構造は、糸に重りを吊るすことでできるカタナリー曲線(放物線)を逆さ

まに用いたことで知られている。コンピュータのない時代にこの形式で設計したガウディは構造家としても優秀であったといえる。

バルセロナにはガウディの有名作品は数多くあるが、郊外にあるコロニア・グエル教会の地下聖堂も構造として非常に面白い。ステンドグラス越しに入ってくる日光が幻想的な薄暗い空間は、石柱と壁によるアーチ構造で形成されている。ガウディはこの設計において、数式を用いずに10年の歳月をかけてフニクラ(逆さ吊り模型)による実験で形状を決めている。

旅を終えて

今回の旅では、構造とデザインの両立を最新の建築と歴史ある建築から学んだ。現代の技術では特殊形状をデザインすることは容易いが、構造的に成立し実現させられるかは構造エンジニアの技量次第である。今後、構造デザインの道を進むうえで、今回学んだ基本的な視点に立ち戻って設計することを常に考えたいと思う。



松田貴裕 Matsuda Takahiro

1995 神奈川県生まれ

2014 日本工業大学駒場高等学校卒業

2014 工学院大学建築学部建築学科入学

2018 工学院大学建築学部建築学科(山下哲郎研究室)卒業

2018 工学院大学大学院工学研究科建築学専攻(山下哲郎研究室)

将来の夢 イメージを実現できる構造エンジニア



サグラダ・ファミリア構造 形式だけでなくステンドグラスや高い天井なども魅力的な世界遺産。ガウディの未完成建築





Bishan-Ang
Mo Kio Park

Garden CityからCity in the Gardenへ

「庭園のような都市」Garden Cityを目指す政策から、「家から一步出ると自然が溢れるような都市」City in the Gardenを目指す政策へと進化しているシンガポールでは、ランドスケープデザインが「熱い」。この国では、都市と自然の歪みを優しくつなぎ止めるグリーンインフラ（特に雨水管理に着目したもの）を政策を進める手法の一つに用いて、ランドスケープデザインを作り出している事例が多い。そんな新しいランドスケープデザインを見るために、私は暑くて熱い国シンガポールへ渡った。7日間で多くの作品を見、いろいろなことを感じたが、グリーンインフラをベースにしたランドスケープデザイン、ビシャンパーク（Bishan-Ang Mo Kio Park）見学で得た2つのことを報告する。

人口護岸だった際の部材を使ったオブジェの傍で遊ぶ子供たち



「熱い」国
シンガポールへ

Okajima Chihiro / March 2-9, 2018 / Singapore

園内に仕込まれた水の道



水が浄化されるクレンジングビオトープ



園内を流れるカラシ川



人のアクティビティで仕切られる空間

グリーンインフラの可視化

ビシャンパークは、カラシ川沿いの公園である。元々は人工護岸だった場所を自然護岸にし、グリーンインフラとして機能の確立と、生態系の保全とを目的に改修された。公園内には雨水の流れをコントロールするように起伏が作られており、それらはクレンジングビオトープ（Cleansing Biotope）と呼ばれる、水の浄化と生物の生息空間の機能を持つ場所に流れ込む。ここで浄化された水は公園内を流れて行き、最終的に、子供用のじゃぶじゃぶ池広場につながる。集められた水が目に見える形で浄化され、その水で子供が遊ぶ、という「しゅくみの可視化」は住民にその土地について考えてもらうきっかけになる。そして、そのきっかけは、いつしか、都市と自然の間の歪みを埋めるといふグリーンインフラの目的に一步近づく鍵になるのではないかと……。クレンジングビオトープを見て強く感じた。

日常のランドスケープデザイン

私が訪れたのは日曜日の昼頃。川沿いにはたくさん的高層ビルが立ち並び、都市の中にある公園であることが実感できた。日曜日であったことも関係しているのか多くの人々がこの公園を訪れてい

た。川沿いの芝生広場で遊ぶ大人たちはクリケットやバレーボール、サッカーをしたり、川沿いの緑道でジョギングをしたり。ふと水辺を見れば楽しそうに魚に餌をやる子供たち、手をつなぎ園路を歩く親子、心地よい風が流れ込むカフェで食事を楽しむ人々。一つの空間のなかに、木の影、植栽の高低によるゾーニング、柔らかに区切られた空間があり、たくさんの人々が思い思いの休日を過ごしている風景がそこにはあった。彼らの当たり前の休日の、当たり前の過ごし方の一部に、当たり前のようにその風景は溶け込んでいた。観光客である私でさえも、ベンチに腰掛けて風に吹かれながらその風景を眺めていると、いつの間にか、心地よい気持ちでその風景の一部になっていたような気がする。

経験を形に

あれから9ヶ月経った今、私は卒業制作に取り組んでいる。「日常に溶け込むように」、「仕組みを可視化できるように」、この渡航で得た2つのことは私の卒業制作のデザインのベースであり、今後もあり続けるだろう。最後に、このような機会を与えてくださった同窓会の皆様、本当にありがとうございました。



岡崎千尋
Okajima Chihiro

1996
東京都生まれ

2015
東京都立白鷗高等学校卒業

2015
工学院大学建築学部入学

2017
工学院大学建築学部
まちづくり学科（緑沢研究室）

将来の夢
世界で活躍するランドスケープ
アーキテクトになること



サン・ピエトロ大聖堂のクーボラから見た
サン・ピエトロ広場とローマの街並み



神聖な街 ローマの教会堂を巡る

Mikami Manami / September 2-8, 2018 / Italy



サン・カルロ・アッレ・クアトロ・フォンターネ聖堂
のクーボラ



サン・カルロ・アッレ・クアトロ・フォンターネ聖堂
のファサード

はじめに
西洋建築史を学ぶ中で、日本では見られない大空間の幻想的な教会堂に魅せられた。今回私がイタリアのローマに渡航を決めたのはその教会堂が多く存在する為である。またフランチェスコ・ポッロミーニに興味があり、その大聖堂や修道院もローマに多く存在する為でもある。ローマの街の規模から、ひたすら歩いて様々な教会堂を隅々まで見たいと考えた。

ローマの都市
16世紀末頃、その時の教皇シクストゥス5世がローマの街並みを現在に近い形に整備した。ローマはバチカン市国に接していて、その中にキリスト教の総本山サン・ピエトロ大聖堂がある。その為

多くの巡礼者が訪れる。シクストゥス5世は一大巡礼地として教会堂を修復し、いくつかの大聖堂を結ぶ直線道路を計画した。実際に街を歩いてみると至る所に教会堂があった。一つ一つ規模も雰囲気も様式も異なっていた。教会で祈っている人々を見ていると、そこはとても大切な場所で、ローマの人々と巡礼者にずっと守られてきたのだろうと感じた。また、都市と教会堂が密接な関係にあると感じた。

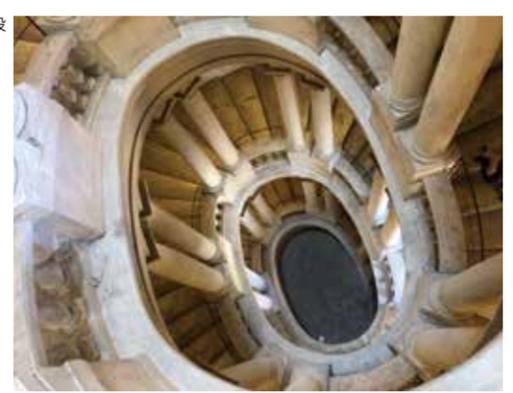
ローマの建築(バロック様式)

バロックの語源はポルトガル語のBarroco(歪んだ真珠)と言われ、元々は古典的なルネサンス芸術に対する非正統的な芸術という意味で否定的に使われた。カルロ・マデルノはそんなバロック様式の先駆者でありフランチェスコ・ポッロミーニの師匠である。この旅で絶対に見ておきたい建築の中にサン・カルロ・アッレ・クアトロ・フォンターネ聖堂というポッロミーニの代表作があるが、あまり気に留めていなかったサンタ・マリア・デッラ・ヴィットーリア聖堂というマデルノの作品がとても鮮明に心に残っている。大きな教会ではないが、教会内いっばいにある装飾、主祭壇の神々しさ、パイプオルガンの響きなど全ての密度が濃い空間に見入ってしまった。天井画を囲む天使の彫刻からは天使達の躍動感がすぐ感じられ、上へ上へと導いているようだった。



サンタ・マリア・デッラ・ヴィットーリア聖堂の天井画を囲む天使の彫刻

バラツォ・バルベリーニの階段
(ポッロミーニ設計)



最後に

ローマには所狭しと教会堂があつて「神聖な街」という風を感じた。教会堂は建つまでに長ければ何百年もかかったり、途中から異なる様式が混ざったりする。そんな日本には少ない組積造の教会堂を訪れて、常に様々な歴史の中にいる気持ちになった。日本では30年もすれば建物を壊してしまうが、ヨーロッパはその当時の建物で溢れている。その様な街並みはとても貴重で魅力的であると思う。昔の建築家はその時代の様式を使って建て、その人の表現力や想像力で装飾した、教会堂を今の時代に見ると不思議な気分になる。

街を歩いて見ないとつかめない規模感や雰囲気を実際に味わえてとても貴重な経験になった。百聞は一見に如かずということをもぎまぎと感じた。このようなローマでの貴重な経験を忘れずに今後にかかしていききたいし、今回気になった事をもっと研究していきたいと思う。



三上真実
Mikami Manami
1996
青森県生まれ
2015
都立杉並総合高等学校卒業
工学院大学建築学部総合入学
2018
工学院大学建築学部
建築デザイン学科
中島智章研究室
将来の夢
住みやすい住宅を
提案する仕事をしたい。

学部3年次のカンタベリー留学で、ヨーロッパの古い建築が残る中に現代の賑わいが混在している街並みに、日本では見たことのない魅力と居心地の良さを感じた。その後、4年、修士1年とコンバージョン設計に取り組んできたが、どれもありがたくな案になってしまい納得のいく設計がなかなかできなかった。既存建築に意匠を入れ込んでいく設計手法の研究を修士論文のテーマとし、その事例調査が今回の旅の目的である。バルセロナ、チューリヒ、ミラノから3棟の建築を紹介する。

**Can Framis Museum /
BAAS arquitectura / Barcelona**

元々重工業地帯だったが、現在再開発が進み建設中の高層ビルが立ち並ぶエリアに位置する。上書きされてしまった個性のない街を歩いていると、木々の茂る公園に行き着く。街路から少し低くなり、森の中に入り込むような感覚で奥へ進むと、そ

の中に近代化から取り残されたような建築がある。18世紀後半まで織物工場として使われていた場所は、工場オーナーのコレクションを収蔵するカン・フラミス美術館として改修された。都市の騒音から切り離された静けさが居心地良く、都市の中のオープンスペースとしての役割を果たしていた。周辺のランドスケープが人々を引き込み、かつての大きな中庭がそのまま人を滞在させる空間として存在していた。



Can Framis Museum周辺

Can Framis Museum中庭

**過去と未来が混在する
ヨーロッパ**

Ono Asumi / May 13 - June 12, 2018 / Italy, Spain, France, Swiss



Schiffbau / Ortner+Ortner / Zürich

元造船工場をコンバージョンしたコンテンポラリー系のシフバウ劇場。2つのホールとジャズクラブ、レストランを含む。スイスにおける現代劇場の実験的な存在として作られた。既存の大空間をそのまま生かしている。ホール前のBARと外部の広場は、公演時だけでなく普段は地元の人々が集まり賑わいの場となる。内部は古いストラクチャーがそのまま残されておき、ガラスで空間を仕切っている。新旧の対比が好奇心を掻き立てる空間だった。

Fondazione Prada / OMA / Milano

100年前のジンの蒸留工場がプラダ財団のコレクション美術館として生まれ変わった。7棟の既存と3棟の新築で構成され、ギャラリーやイベントスペース、カフェ、オフィス等を含む。個々に機能していた既存の分棟に、美術館としての動線計画を落とし込むことで、敷地全体に新しい流動と滞留の関係を作り出している。空間の転用や素材の使い方も、独特だが違和感がない面白い空間を演出していた。しかし敷地全体に既存とは全く異なる新しい流れが生まれている点に対して一番魅力を感じた。

旅を通して

どの場所にも歴史、文化、人柄、賑わいがあり、そこにしかない空間が蓄積されている。それらをただ残すだけでなく、さらに未来を蓄積させていくために建築家がデザインを加えていた。古いものに新しいものがぶつかり合い、全く新しいものが生まれている場所に魅力を感じた。

また、ヴェネチア大学合同ワークショップから続いた長期の旅だったこともあり、建築家を含めたそこで生活している多くの人の「古いモノ」に対する考え方と東京の人との違いを感じた。貴重な経験から得られた感覚を、今後の分析に役立ててより自分らしい研究をしたい。



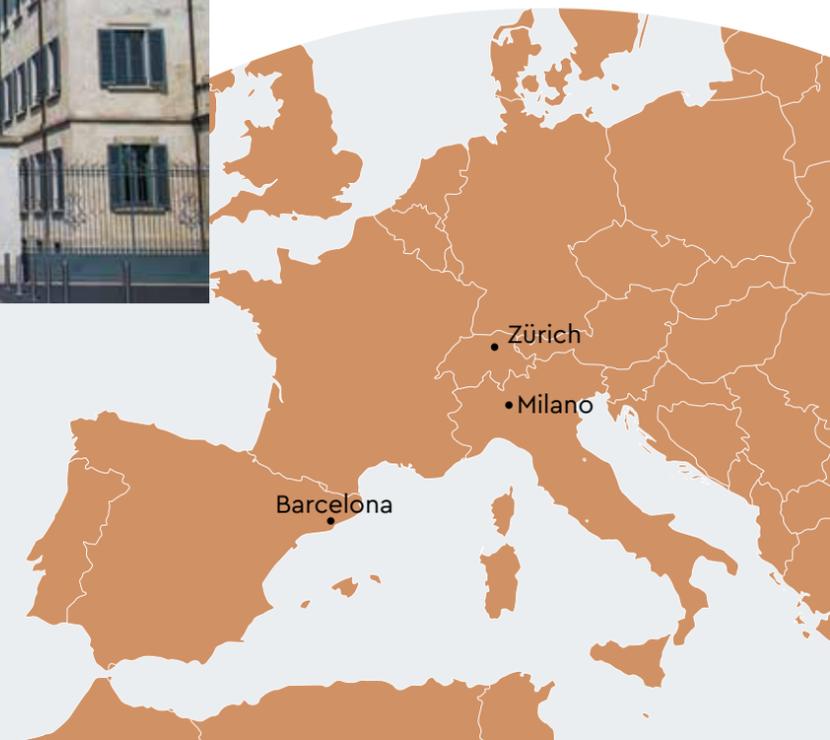
Schiffbau ホワイエ&BARラウンジ



Fondazione Prada入り口



Fondazione Prada敷地内



小野亜純
Ono Asumi

1994
神奈川県生まれ

2013
神奈川県立元石川高校卒業
工学院大学 建築学部
建築総合学科入学

2017
工学院大学 建築学部建築デザイン
学科(澤岡研究室)卒業

工学院大学大学院 工学研究科
建築学専攻(澤岡研究室)入学

2019
株式会社梓設計入社

将来の夢
建築を通して人を笑顔にする仕事



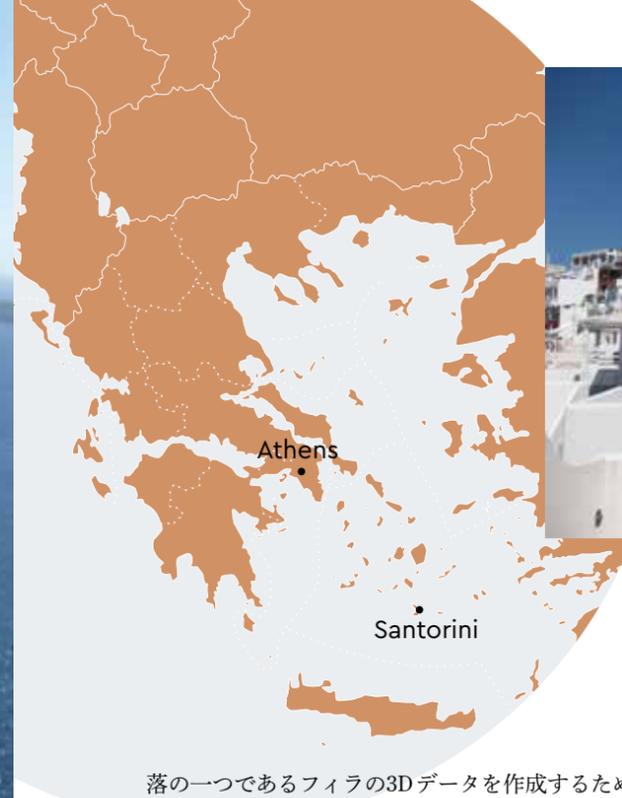
フィロステファニから見たフィラ
急な断崖の、高さ220mから226m付近に
建物が密集して建てられている様子が見える



崖に沿う集落 サントリーニ島・フィラ

Ohno Yu / February 18-28, 2018 / Greece

崖の上から集落を見下ろす
建物の屋根がテラスとして使われていることが多い。夕日が沈むときには、
大勢の人が滞在する建物のテラスに出てくる



狭く複雑に曲がる道
道は幅が狭く、ほとんどが斜面か階段であるため、
人とロバしか通ることができない



路地
フィラの細い路地にはカフェや
ショップが軒を連ねる。
階段に書かれている数字は
崖の下の港からの階段の数

落の一つであるフィラの3Dデータを作成するために正確な等高線のデータが必要だったが、日本では手に入れることができなかつたため、実際に歩いて測定を行った。集落の道は迷路のように入り組んで作られていて、そのほとんどが斜面か階段である。周りの建物がすべて白で統一されていることもあり、現在位置を見失って同じ場所を何度も行き来することが多い。一日中常に曲がりくねった階段を上り降りしている状態になるので、体力の消耗が激しくとても疲れる。

それでも歩き続けられるのは、この集落の美しさが要因だ。サントリーニ島の集落のように、自然に抗わず、自然に沿って建物を建てることで作り上げた景色であり、普段私が暮らしている日本の町のように、森や川などの自然を破壊し、人間が自然を押しさえつける形で作った町では見ることができない美しさである。そして断崖上にあるすべての建物の壁に塗られた白色が、空とエーゲ海の青色によって引き立てられることで、より一層集落を美しいものになっている。実際に歩いていると、映画のセットの中に入っているのではないかと思うほど非現実的な場所だった。

アテネ

ギリシャ滞在中、数日アテネにも立ち寄った。サントリーニ島と同じ国にある都市なのかと疑うくらい、アテネの治安は悪く、町は汚れていて、落ち着かない場所だった。良さが全く分からなかったため、特に書くこともない。



Metropolis Orthodox Church
一番目立つため、フィラの町の散策の起点や目印となる教会。
毎朝決まった時刻に鳴らされる鐘の音色がとても美しい

旅を終えて

この旅で、サントリーニ島の集落に実際に数日間滞在することで、人間の手で美しいものを作り上げるには、自然に逆らわず、自然に寄り添うものを作ることが大切だと感じた。サントリーニ島では、日本にいる時と同じくらい安心して過ごすことができた。安心して滞在できた要因は、島の人の影響も大きい。島全体がリゾート地であるため、バスの運転手や空港の職員、ホテル関係者、店の従業員、工事現場の大工さんまで非常に観光客に慣れていて、観光をしていると気さくに話しかけてきてくれる。島の景色もよかったが、その島にいる人たちも良い人ばかりで、初めての海外へ旅をする場所にサントリーニ島を選んで本当に良かったと思う。サントリーニ島と島の人、そしてこのような機会をいただけたことに感謝したい。



大野由

Ohno Yu

1995

埼玉県生まれ

2013

私立上野学園高等学校卒業

2013

工学院大学工学部建築学科
建築学コース入学

2017

工学院大学工学部建築学科
建築学コース(藤木研究室)卒業

2019

工学院大学 工学研究科
建築学専攻(藤木研究室)

将来の夢

地球が作り出す自然の景色よりも、
美しいものを作ること

白樺湖 夏の家



白樺湖夏の家は、工学院大学白樺湖学寮として長く使われてきた施設を、2016年に工学院大学建築学部同窓会が保存・活用のために引き継いだものである。

学生と地元住民との交流をきっかけとして造られた小さな小屋から始まり、歴代の建築学科教員などの設計で増改築がなされ、最終的に武藤章(1931-1985)のプランでまとめられたこの施設は、学生たちの思い出というだけでなく、工学院大学建築学科の歴史そのものであり、在職中に早逝した武藤章の建築として貴重なものである。

2018年は「建築を保存する会」としての活動も3年目に入り、備品も充実したことで使い方も安定

してきた。前年に引き続き、北欧建築デザインの集い、大学合同のゼミ活動、外構整備などを行うとともに、一連の活動を社会に発信することに注力し、同窓会以外の方々を対象にした見学会を開催した。また本会の活動に対し「これからの建築士賞」(東京建築士会)を、建築に対し「JIA25年賞」(日本建築家協会)を受賞した。さらに2019年3月に日本建築学会で開催される「アルヴァ・アアルト生誕120周年記念展覧会」にて本施設の資料展示を行っており、アアルトに師事した建築家・武藤章の再評価につながった。工学院大学建築学部同窓会の活動が、社会で高い評価を得ていることを確信できた1年であった。(香川浩)



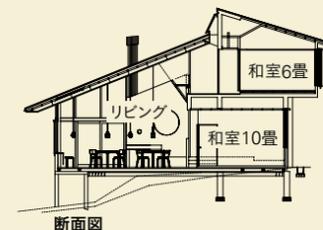
5/3-4 開館、通水、大掃除、 外構測量、白樺植樹

鈴木研究室メンバーに加え、小俣光一氏が参加。前号で報告の通り、外構整備計画案に従い、10本の白樺の若木を建物の周囲に植樹した。近い将来に駐車場は豊かな庭となる。

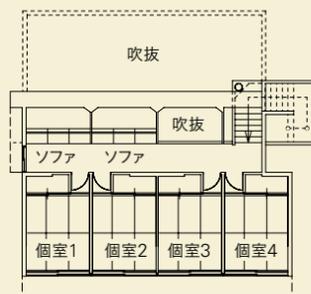


基本情報

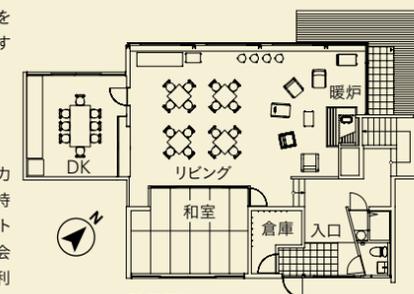
施設名:白樺湖夏の家/工学院大学旧白樺湖学寮
所在地:長野県茅野市北山29
主要用途:フィンランドの巨匠アルヴァ・アアルトに学んだ唯一の日本人建築家で工学院大学教授であった武藤章先生(1931-1985)が設計した建築の動態保存を目的に、主に北欧の建築とデザインに関する講演会やワークショップ等に活用する。「白樺湖夏の家」を拠点に、北欧の暮らしに啓発活動を通じ、白樺湖活性化に貢献したい。



断面図



2階平面図



1階平面図

会員 募集中

「建築を保存する会」

本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する校友の会。入会時寄付金は300,000円、維持協力金は12,000円/年。現在の会員数は20名。入会金は改修工事費等の原資となった。会員には「白樺湖夏の家」の鍵が与えられ、まるで自分の別荘のように利用することができる。会員は広く校友と教職員から募集する。会員の同伴を条件に、だれでもいつでも夏の家を利用することができる。教員が入会し研究室のゼミ活動等で有効活用することを期待している。利用スケジュールは「建築を保存する会」が管理する。

企業会員 募集中

「建築の保存を支援する企業の会」

本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する企業の会。入会時寄付金は500,000円、維持協力金は120,000円/年。建築の保存をサポートする企業として建築系同窓会が表彰する。企業会員は本建築を企業研修、企業主催のイベントに利用できる。本学学生を対象とするイベントについては、建築系同窓会が全面的に支援する。

6/7

第4回これからの建築士賞 受賞

東京建築士会による「これからの建築士賞」とは建築士の幅広い視点を活かし、地域社会と協働する建築を表彰する賞である。晴海トリトンスクエアにて開催の授賞式には、白樺湖学寮の設計者である名誉教授の南迫哲也先生と、「白樺湖夏の家」として近年の減築と維持保存を担当した鈴木敏彦、香川浩が表彰式に出席し、喜びを分かち合った。



WRS2018競技合宿 7/7

ロボット研究者が白樺湖夏の家に結集し、会議を行った。10月に東京ビッグサイトにて開催のWorld Robot Summit 2018プレ大会は、ロボットの未来を多角的に展示するイベントである。実行委員を務める鈴木先生率いる工学院大学の鈴木研究室と首都大学東京の和田研究室は未来のコンビニエンスストアのトイレで用いられる清掃ロボットを協働で開発している。都心から2時間、緑に囲まれた空間での会議はいつもに増して話が弾んだ。



歳時記2018

白樺湖 夏の家

7/21

JIA長野県クラブ夏のセミナー

日本建築家協会の関東甲信越支部長野地区会の会員26名が参加した。「断面(セクション)の建築家」との異名を誇る武藤章先生の設計手法を南迫先生が解説し、参加者は、白樺湖が見えるようにと設計した2階からの景色や吹き抜けの空間構成、暖炉の心地よさを体験した。



白樺湖夏の家 / 7/21 第3回北欧建築デザインの集い

日時:2018年7月21日、18:00~20:00
テーマ:「日本の建築家たちと北欧」
講師:磯達雄氏(建築ジャーナリスト)
主催:工学院大学建築学部同窓会/建築を保存する会



磯氏が『新建築1981年12月臨時増刊/日本の建築家』や多くの資料を題材に、北欧の建築や建築家に関する言説を取り上げてその本質を解説した。その後は近所のスウェーデン料理の名店、ガムラスタンの北原シェフの料理に舌鼓を打ちながら武藤章に関する議論で白熱した。



7/21-22

黄色スズメバチの大きな巣を発見!

専門業者に依頼して翌朝駆除してもらい事なきを得た。スズメバチは春先に巣を作り始めるとのこと。毎年開館時に蜂よけのスプレーを要所に撒いて対策しておきたい。

9/8-9 5大学合同合宿ゼミ

湘南工科大学、前橋工科大学、関東学院大学、首都大学東京、工学院大学から総勢42人が集結した。1時に課題発表とチーム分け、5時に第1回中間発表、深夜0時に第2回中間発表、翌朝8時に最終プレゼンテーションという鬼のスパルタ研修だったが、みんなよく頑張った。夜はジンギスカンと特製ピザで友好を深めた。(香川浩)
白露の季節に毎年恒例の公共ゼミ合宿を開催した。5大学から26名の学生が集い、白樺湖周辺における地域活性化を考慮し即日コンペティションを行った。3グループが「白樺湖夏の家を自治体に移管したら」というテーマで白熱したブレインストーミングに取り組み、「フォトイベント」「夜のアクティビティ」「北欧のライフスタイル」というキーワードを抽出した。ジンギスカンの夕食や、課題の合間の交流を経て、翌日の表彰式で「北欧のまちプロジェクト」が1位に輝いた。各大学で異なる専門分野を学ぶ学生が共通のテーマを議論することで、様々な視点から物事を捉えることの重要性を学べ、大変充実したゼミとなった。徹夜で課題に没頭し、この建物の素晴らしさと周辺環境の理解が深まったと思う。(石間克弥)



9/15

白樺湖夏の家 / 第4回北欧建築デザインの集い

日時:2018年9月15日、18:00~20:00
テーマ:建築を継承すること
講師:野沢正光氏(建築家 / 一般社団法人住宅遺産トラスト代表理事)

野沢先生は1970-80年代に工学院大学で非常勤講師を務め、生前の武藤章先生と親交があった。講演後は建築保存から武藤先生の思い出まで、暖炉を囲んでお酒を飲みながらの四方山話に花を咲かせた。



10/14-15

アルヴァ・アアルト展関係者視察

国内巡回中のアルヴァ・アアルト展関係者が白樺湖夏の家を視察。暖炉を囲みワインを楽しみながら北欧と日本の建築に関する議論を交わした。



10/29-30

JIA25年賞現地審査、冬期休館

日本建築家協会JIAの審査委員による現地審査。南迫哲也、鈴木敏彦、香川浩が建築概要を説明した。その後、鈴木研究室のゼミと、全員総出で大掃除を行ない冬期休館した。なお、水抜き作業は地元の花岡設備工業に依頼し、10/31に実施した。次は2019年5月1日に開館する。





工学院大学白樺湖学寮(1968)と工学院大学八王子図書館(1979-2015)の1/50スケールのバルサ模型を展示した。藍色にエージングした白樺湖学寮の模型は50年前に武藤研究室で作成したものだ。その横に並べた今は無き八王子図書館の模型は展覧会に合わせて鈴木研究室が作成した。

武藤章の内省する空間

武藤章(1931-1985)は1961年10月にフィンランドのヘルシンキに渡り、翌年の9月までアールト事務所に勤め、アールトに薫陶を受けた唯一の日本人建築家である。帰国後、北欧モダニズムを継承する建築作品と、アールトに関する著書を多数発表した。アールト本人から承諾を受けて1969年3月に出版した『アルヴァ・アールト』(SD選書、武藤章著)は、建築を学ぶ学生や建築家のバイブルとして今でも版を重ねている。武藤はこの本の巻頭に「建築—その真の姿は、人がその中に立った時にはじめて理解されるものである」というアールトの言葉を掲げた。1979年12月に竣工した「工学院大学八王子図書館」の設計思想は、まさにこの言葉を思い起こさせるものであった。注意深く直射光を遮りながら間接光として自然光を取り込む大きなスカイライトや、閲覧テーブルに仕込まれた頭寒足熱の暖房、閲覧者ひとりひとりに用意されたオリジナルテーブルライトなど、日本における北欧ともいべき表現が色濃く現れた心地よい図書館であった。しかし2014年10月、工学院大学評議員会によって解体が決定された。工学院大学建築系同窓会は強く保存を訴えたが、様々な理由によって解体を阻止できない現実を直視し、改めて建築の記録と保存



の方法を模索する中で、『建築を保存する本』(Opa Press、編著NICHE)の発行に至った。新たに撮り下ろした詳細な記録写真や論文、関係資料に加えて実施設計図の意匠図一式108枚が収録された。これらに基づけば、八王子図書館はいつの日か復元、再建することも不可能ではないという意思表示であり、同時に建築を保存する手法の提案でもあった。

1968年竣工の「工学院大学白樺湖学寮」は、武藤がアールトの事務所から日本にもどり、前掲の『アルヴァ・アールト』の書籍の執筆と時期を同じくして設計したこともあって、アールトの影響が随所に見られる建築である。こちらも2016年3月に閉鎖が決定され、解体の危機を迎えた。今回は同じ轍を踏むまいと交渉した結果、建築系同窓会が大学から土地の借地権および建物を引き継いだ。現在、増築部分を減築して原型にもどし、「白樺湖 夏の家」として動態保存している。この保存と継承の取り組みが評価され、2018年度の「第4回これからの建築士賞」(日本建築士会)および「第18回JIA25年賞」(日本建築家協会)を受賞した。これらを糧として、武藤の追求した建築とは何かを再考する機会とした。(鈴木敏彦)

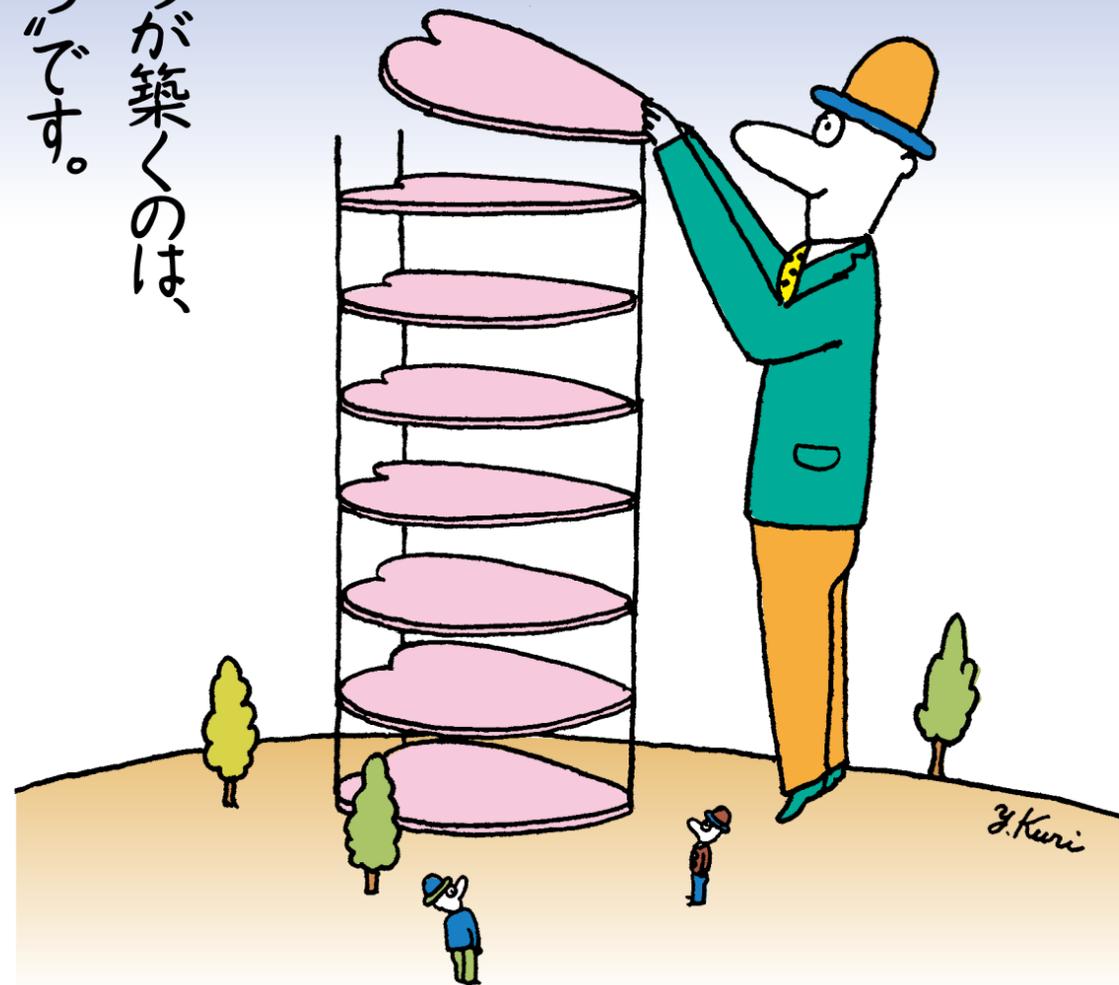
アルヴァ・アールト生誕120周年記念
国際シンポジウム&展覧会
—内省する空間—アールトの図書館と住宅

【展覧会】2019年3月4日~3月17日
日本建築学会建築博物館ギャラリー

【国際シンポジウム】2019年3月16日
建築会館ホール



「
私たちが築くのは、
グッジョロです。」



使う人の気持ちにこたえる“しあわせ品質”をお届けするために
技術力と人間力を掛け合わせた
独自の“現場力”をもって全力で取り組みます。
そして完成後も、運営、維持管理、修繕、再生まで一貫して携わり、
新しい物語が生まれ続けるくらしの舞台を、
時代をこえて支え続けていきます。

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



フジタと描く、未来のカタチ。

私たちフジタは、お客様や社会が思い描いている未来を想像し、その実現に向かって、共にカタチにしていきます。

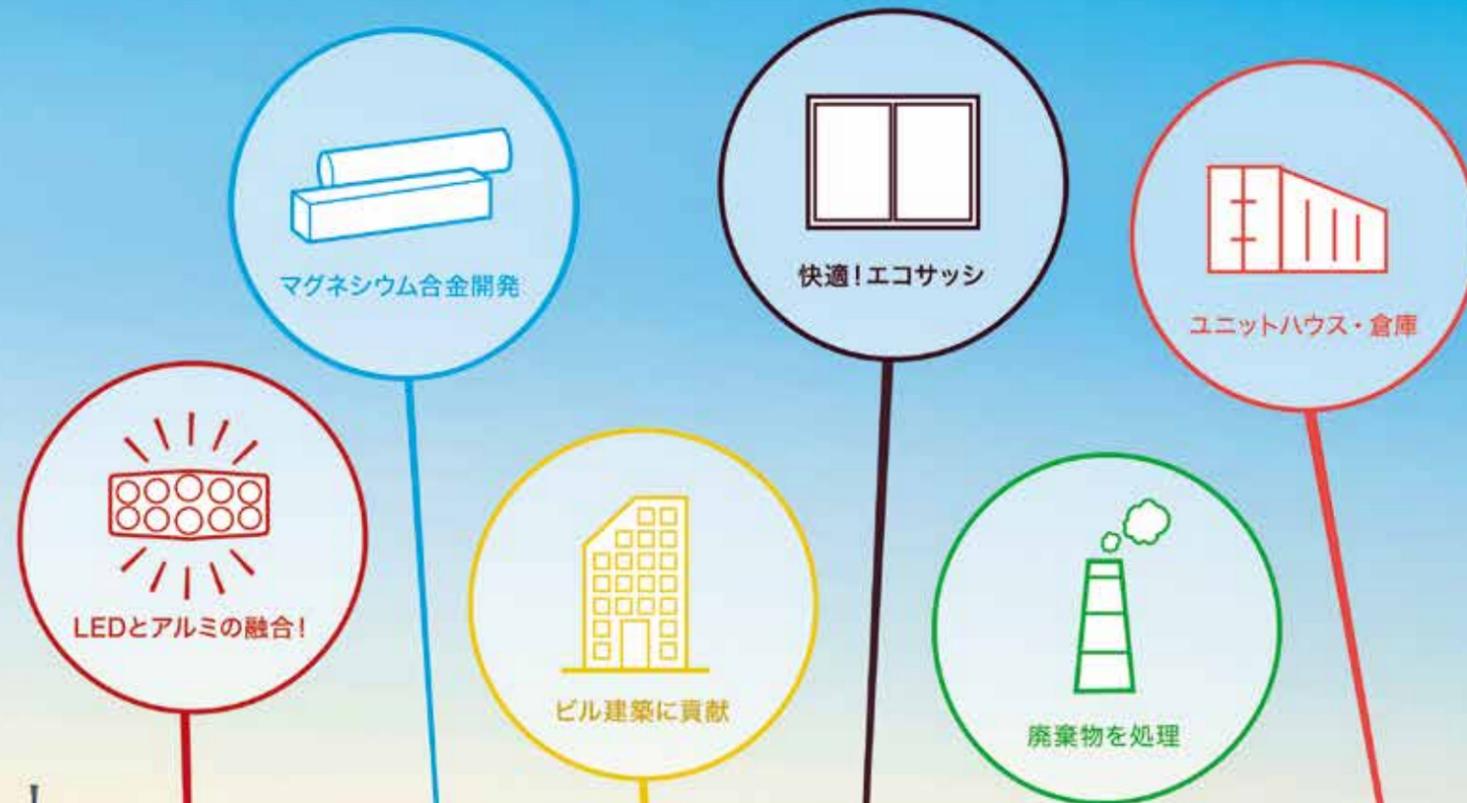
土木・建築の枠を超えて、まちづくりをサポートし、そこに暮らす人々にとって本当に価値あるものを創り続けることが私たちの使命だと考えます。

大和ハウスグループの一員として、広い視野を持ち、グローバルに展開してきたフジタ。たゆまず進む私たちに、どうぞご期待ください。

FUJITA

 Daiwa House Group

あなたのそばに、いつも。



窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

www.fujisash.co.jp

わたしたちは、
構造計算適合性判定業界の
リーディングカンパニーとして
社会に貢献しています。

取締役会長 田野邊 幸裕 (昭和 44 年卒)
代表取締役社長 鈴木 宏夫 (昭和 44 年卒)
顧問 平野 久雄 (昭和 41 年卒)
監査役 谷口 宗彦 (昭和 44 年卒)

構造に興味のある方一緒に働きませんか？

構造計算適合性判定員と補助員を募集しております。

03-6413-5771 (管理部) までご連絡ください。



指定構造計算適合性判定機関 / 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

株式会社 **建築構造センター**

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-8-1 大橋御苑駅ビル 6階 TEL : 03-6413-5777

皆さまの合格実績に支えられ、
おかげさまで50周年 since 1969



2018年 1級建築士 学科 本科コース 基準達成合格実績

合格率

基準 7割出席・7割宿題提出
公開模試試験② 90点/125問
基準達成者数 290名中 合格者数 251名

86.5%

※上記合格率には、模擬試験のみの受講生や教材購入者、無料の役務提供者は含まれておりません。
※平成30年9月4日時点での速報値です。

私も日建で
頑張りました。

1級建築士合格/平岡里奈子さん

1級建築士 累計合格占有率

No.1

結

努力を結果に結びつける

1983~2017年 合格者累計
日建学院 1級建築士 13,712人
全国累計 1級建築士 197,391人

当学院合格者の
1級建築士占有率 57.6%

この35年間の1級建築士の半分以上が日建学院出身者です。

2級建築士 173,239人 *1980~2017年累計
宅地建物取引士 102,328人 *1978~2017年累計

※上記全国累計は(公)財 建築技術教育普及センター発表試験結果(1983~2017年)のデータです。

日建学院コールセンター 0120-243-229

株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1 受付/AM10:00~PM5:00(土・日・祝日は除きます)

Cover Story

中島智章



主機材

ボデー：ハッセルブラッドSWC
(Hasselblad SWC)
レンズ：カール・ツァイス・ビオゴン
(Carl Zeiss Biogon)38mm f4,5
発売開始年：1959年

副機材

ボデー：ガンマ・ドゥフレックス
(Gamma Duflex)
レンズ：ガンマ・ガンマー
(Gamma Gammar)5cm f3,5
製造年：1948-50年

撮影場所

ハンガリー国立
地質学研究所

撮影日

2018年8月22日



今回の取材の主機材は「NICHE 04」と同じくハッセルブラッドSWC、および、ソニーα7RIIである。ハッセルブラッドSWCにはNICHE vol. 41および「NICHE 05」で触れたので、本稿では副機材のドゥフレックスについて解説する。これはハンガリーの生んだ珍しい一眼レフカメラだ。このカメラは、正立正像のアイレヴェル・ファインダー、クイック・リターン・ミラー、そして、完全ではないが自動絞りという、一眼レフカメラの普及にとって重要な技術群を同時に導入した最初期の機種の一つとして知られている。これはハンガリーの生んだ珍しい一眼レフカメラだ。このカメラは、正立正像のアイレヴェル・ファインダー、クイック・リターン・ミラーとは撮影の直後にミラーが元の位置に戻ってファインダー像が再び見えるようになる機構、自動絞りは撮影時にあらかじめ定めた絞り値に絞りが絞られ、撮影後に開放絞りに戻る機構、正立正像アイレヴェル・ファインダーとは、ファインダーが上ではなくカメラの後ろに付いている、ファインダー像が左右逆像にも上下逆像にもならないものをいう。1940年後半はウェストレヴェル・ファインダーで

はなく正立正像アイレヴェル・ファインダーを備えた一眼レフカメラがいくつか登場し、望遠レンズ専用、接写専用とされていた状況が打破されつつあった。さらに、ドゥフレックスは横走りメタル・フォーカル・プレーン・シャッターをも備えていて、このカメラが1940年後半において極めて高い先進性を備えていたことがわかるだろう。

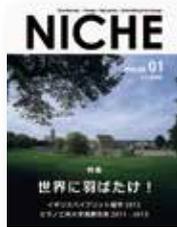
その開発者はドゥロヴィツェ・イェヌー (DULOVITS Jenő, 1903-72)で、「ドゥフレックス」という機種名は、彼の名字の頭2文字と「レフレックス」の「フレックス」を合わせたものである。1943年にいくつかの特許を取得し、1944年にはガンマ社でプロトタイプを製造した。1946年にガンマ社と生産契約を結び、1947年に試作機が製造され、1948年6月末まで試作が重ねられて、同年末から1950年初頭まで550台弱が製品として生産されている。

参考文献

FEJÉR Zoltán: *Hungarian Cameras*, Budapest, 2001.

Back Numbers

01と02はAmazon、03と04と05はAmazonと全国書店でお買い求め頂けます。



NICHE mook 01
世界に羽ばたけ!

イギリスハイブリッド
留学2013
ミラノ工科大学国際交流
2011-2013

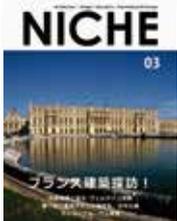
2014年3月31日発行
214ページ永久保存版/特集130ページ、日英バイリンガル
ISBN 978-4-907469-00-9
1,200円+税



NICHE mook 02
台湾建築探訪!

台湾のフジモリ建築
知られざる梅澤捨次郎の仕事

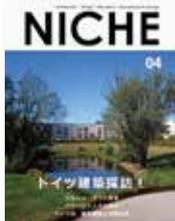
2015年3月31日発行
248ページ永久保存版/特集160ページ、日台バイリンガル
ISBN 978-4-907469-02-3
1,800円+税



NICHE 03
フランス建築探訪!

第一回文部省フランス留学生、
古市公威
ジャン・ブルーヴェ再考

2016年7月14日発行
282ページ永久保存版/特集156ページ、日仏バイリンガル
ISBN 978-4-908390-01-2
2,400円+税



NICHE 04
ドイツ建築探訪!

ブルーノ・タウト再考
パウハウスとその時代
ドイツ派、妻木頼黄と
矢部又吉

2017年8月14日発行
282ページ/特集274ページ、日独バイリンガル
ISBN 978-4-908390-02-9
2,400円+税



NICHE 05
イタリア建築探訪!

辰野金吾のグランドツアー
JOE COLOMBO
1952-1971
永遠の都ローマ

2017年8月14日発行
253ページ/特集201ページ、日伊バイリンガル
ISBN 978-4-908390-04-3
2,400円+税

大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する建築とデザインの本『NICHE』のダイジェスト版

次号
予告

NICHE 06 プラハ、ウィーン、ブダペシュト建築探訪!

2019年5月発行予定

NICHE編集部

鈴木敏彦(編集長)、大塚篤、香川浩、
楠昭、柴田卓次、新海俊一、土屋和夫、
中島智章、平井充、類子環

工学院大学建築学部同窓会誌

NICHE 2019 vol. 42

発行日 2019年3月20日
発行 工学院大学建築学部同窓会
会長 鈴木敏彦
所在地 東京都新宿区西新宿1-24-2
電話 03-3342-1211(代)
編集制作 杉原有紀、エミリアーノ・カッペリーニ
(株式会社ATELIER OPA)
デザイン 舟山貴士(舟山制作室)

NICHE(ニッチ)

「ニッチ」とは、イタリア語では「ニッキア」(nicchia)といい、フランス語の「ニージュ」(niche)を経て、同じ綴りのまま英語の「ニッチ」となった。日本語では「壁龕(へきがん)」という。古典主義建築のファサードや壁面に施された窪みを意味する。ラテン語の「巢」を意味する「ニドゥス」(nidus)に由来するという説や、半球形となっている頂部が貝殻模様で装飾される場合もあることから貝殻を意味するイタリア語「ニッキオ」(nicchio)を結びつける説もある。この空間には古代ギリシア・ローマ神話の神々やニンフ、ローマ皇帝などの彫像が置かれた。転じて、教会堂内における聖体(キリストの血と肉であるワインとパン)を置く同様の空間や、近世の宮殿や貴族住宅における寝台を収めるアルコーヴを指すようになった。『NICHE』という書名には、大学の知的資源が溢れ出る窪みでありたいという願いを込めている。

NICHE 広告出稿のご案内

掲載	工学院大学建築学部同窓会誌 NICHE2020 vol. 43	
発行日、発行部数	2020年3月20日	20,000部
広告掲載料	A. 表紙裏	1P ¥170,000-
	B. 表紙裏の対向	1P ¥150,000-
	C. 裏表紙の内側	1P ¥150,000-
	D. 中面	1P ¥100,000-
申込締切	2019年12月30日	
サイズ	縦270mm 幅210mm	
広告データ入稿締切	2020年1月31日	
お申込・お問合せ先	工学院大学建築学部 鈴木研究室 鈴木敏彦 電話 03-3342-1211(代) 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2 e-mail: ad@niche-alumni.com *申込書が必要な方はご連絡下さい。	